

# てんとうむし



No. 6

姫路昆虫同好会

# 兵庫県における *Olenecamptus* 属 カミキリムシ 3 種の分布について

(兵庫県産甲虫相資料・86)

高橋 寿郎

*Olenecamptus* 属のカミキリムシで現在兵庫県に分布するのは 3 種である。そこで県下における 3 種の分布についてながめて見ることにしたい。

本文を草するにあたりタカサゴシロカミキリについて色々便宜を与えて下さった三木 進、小倉 滋両氏に厚く御礼申しあげる。

## 1. *Olenecamptus clarus* Pascoe

### ムネホシシロカミキリ

本種は Pascoe によって 1859 年北支那産でもって新種記載されたものである (Trans. Ent. Soc. London, (2)V, P. 44)。その後名和梅吉氏が日本から記録していると (昆虫世界, Vol. 13, No. 148: 501, pl. 24, f. 2, 1909, 據, 草間, 1973)。この文献は見る事が出来なかったので産地を何処何処掲げているのかわからない。1928 年に鹿野忠雄博士は台湾 (新竹州大溪郡ピヤナン産) から記録された (Trans. Nat. Hist. Soc. Formosa, Vol. 18, No. 95: 122)。1933 年には松下真幸博士が朝鮮京城を産地に加えられた (Beit. Kennt. Ceramb. Jap. Reichs. P. 352)。そして 1937 年関 公一氏は北海道産の本種を図説された (昆虫界, Vol. 5, No. 40: 1-4)。その際本州に分布するであろうとされているが分布に本州, 四国, 九州は出ていない。1940 年には平山修次郎氏が朝鮮京城産標本 (21-VII-1938) を原色図説されたが分布に本州, 四国, 朝鮮, 台湾とされ何故か北海道が入っていない (原色甲虫図譜, pl. 48, f. 20, p. 152)。同じ年 (1940) の水戸野武夫氏の "日本産鞘翅目分類目録, Pars. 8, 天牛科" での産地でも本州, 四国が入っていないし、1946 年の関 公一氏による新日本産天牛科目録にも本州, 四国が入っていない。

その後林 匡夫博士の図鑑 (原色日本昆虫図鑑, 甲虫編, 1955。図説されたのは朝鮮赴戦高原産 VII-1940) では日本全土とされ大林一夫氏の図説 (原色昆虫大図鑑, 第 2 巻, 甲虫編, 1963) の分布も同様である。草間慶一博士の報文で対馬が加わった (日本産カミキリの生態と分布一覧表, 1973)。最近の図鑑, 小島圭三・林 匡夫両博士著原色日本昆虫生態図鑑, I. カミ

キリ編 (1974) (図説は福岡県星野村産, ♀, VI-1964) では日本全土・対馬・朝鮮・中国北, 中部・東シベリヤとなっており現在この分布と考えられる。可成り広く分布している種であるがそれ程多く産する種ではなさそうである。お隣の岡山県でも少い種とされている (岡山県の昆虫, 1978)。朝鮮にも少い様で "韓国昆虫分布図鑑, 1978" にも本種の産地は余り記録されていない。

兵庫県下に於ける本種の記録は山本義丸氏の氷上郡神楽 (lex., 13-VI-1951, M. Nakajima leg.) のものが一番古いと思われる (1958), それから高橋 匡氏によって出石郡出石町が記録された (12-VII-1961, 1963)。筆者は氷の山々麓福定の民宿の電燈に飛来した 1♂ を採集 (27-VII-1956) これを記録した (1964)。氷の山ではその後辻氏 (16-VII-1971, 1972), 遊磨氏 (1♂, 21-VII-1971, 1972) の記録がある。小倉氏も福定で採集しておられる (7-VIII-1980)。

以上が現在筆者の知り得た兵庫県下での記録全部である。最近鳥取県八頭郡尾際に貯木場周辺のクワの葉裏にとまっている可成の個体が採集された記録がある (山地, 1979)。県下でも他にもっと産地があるものと考えられる。食樹としてはトウグワ, クワが知られている (小島圭三・岡部正明: 日本産カミキリムシ食樹総覧, 1960)。

## 2. *Olenecamptus cretaceus* Bates

### オオシロカミキリ

本種は Bates により 1873 年新種記載されたものである (Ann. Mag. Nat. Hist., (4)XII, p. 314, 1873)。その原記載には "One example" とのみで産地に就いては何等明示されていない。1973 年の草間慶一博士の目録には本種の模式標本は兵庫 ♀ [英博?] となっている。尤も同博士の 1971 年発表された報文 "ジョージ・ルイスの足跡について" (月刊むし, No. 8, 9, 1971) には 1♂ 産地不明となっている (1959 年の京浜昆虫同好会・新しい昆虫採集, 下. の "日本産カミキリ類生態と採集一覧表" にも原産地兵庫となっている)。Bates の論文は、G. Lewis の採集品に基いて発表され

たものでその初めに“Mr. Lewis collections were made chiefly at Nagasaki, Osaka and Hiogo”となっているのでこの中のものであると思われる。尤も筆者が戸沢信義氏から御借りしてコピーさせて頂いたBatesの原記載は神戸に在住していたJohn, E. Lewisの蔵書のようにペンでMaiyasanの書き込みがあるが之が何を意味しているのか一寸わからない。

Batesが、1884年に発表した日本の天牛の追加篇(Longicorn Beetles of Japan. Additions chiefly from the later Collections of Mr. George Lewis, and notes on the Synonymy, Distribution, and Habites of the previously known Species., Journ. Linn. London, Zool. X VIII : 205-262, pl. 1-11)にも何も言及されていないし同じく1879年 London で発行された“日本産甲虫目録”(A Catalogue of Coleoptera from the Japanese Archipelago)にも産地は書いてない。1887年発行の、Schonfeldt. H. v. の“Catalog der Coleop. Jap.”でははっきりとHiogoとなっている。

1930年には横山桐郎博士の“原色日本の甲虫”に美しい本種を図説され本州に産するとされている(pl. 6, f. 7, p. 45, 1930)。1934年には神谷一男・安立綱光両氏の“原色甲虫図譜”にも分布を本州として図説されている(pl. 36, f. 1, 1934)。この2書は本種の命名者名をPascoeと間違っている。その後1937年には平山修次郎氏の図説(原色千種昆虫図譜, pl. 72, f. 7, p. 161, 1937, 原色甲虫図譜, pl. 42, f. 7, p. 129, 1940, 図示されたのは福岡県太宰府産♂, 12-VIII-1936)で九州の分布が初めて記録された。水戸野武夫氏の“日本産鞘翅目分類目録, Pars. 8, 天牛科, p. 150, 1940”では分布は日本(本州・四国), 朝鮮・中支那となっている。こゝで初めて分布に朝鮮・中支那が入っている。そして九州が入っていない。また同氏による“日本昆虫図鑑, ♀, p. 1241, f. 3575, 1950”の図説もある(分布は前記目録と同様)。1946年の関公一氏の“新日本産天牛科目録, p. 86”(分布は水戸野氏と同じ)にも収録されている。

戦後は林 匡夫博士の図説(原色日本昆虫図鑑, 上, 甲虫編, p. 55, f. 1204, p. 173, 1955, また亜種 ssp. *intacta* Breuningが日光から報告されているとあり分布は本州, 四国, 九州, 朝鮮, 中支東部となっている。図示されたのは大阪市田辺産, VIII-1940), 大林一夫氏の図説(原色昆虫大図鑑, 第2巻, 甲虫編, pl. 153, f. 7, p. 306, 1963. 分布は本州, 四国, 九州, 支那となっており m. *intacta* Breuningがあるときされている)。小島圭三, 林 匡夫両博士の図説(原色日本昆虫生態図鑑, I. カミキリ編, pl. 44,

f. 1, p. 137, 1974. 図示されたのは高知県名野川産VI-1968, 分布は本州, 四国, 九州, 対馬)等々がありその間に1959年の“日本産カミキリ類の生態と採集法一覧表, p. 431”(新しい昆虫採集, 下)に分布は本州, 四国, 九州, 対馬, 朝鮮, 中支那を掲げ亜種 *intacta* Breuningが日光で採集されているとある。併し1973年の草間慶一博士の“日本産カミキリの生態と分布一覧表, p. 119”(新しい昆虫採集案内, III)には台湾に亜種がいるようになっていて本州での亜種には言及されていないし、分布も朝鮮?中支那?には疑問をつけておられ、本州, 冠島, 四国, 九州, 対馬となっている。本州は横浜, 飛騨, 近畿などと記されている。

以上から現在本種の分布は本州, 冠島, 四国, 九州, 対馬と考えられる。台湾には固有の亜種ssp. *marginatus* Schwarzer, 1925が分布している。一番北の記録としては群馬県多野郡新町〔♂, 17-VII-1952, 小倉住夫, 月刊むし, No. 3, 1971〕というのがあるが日光産の亜種があるようだからこちらが北になると考えられる。

本種もそれ程多い種ではないと思われる。食樹はムクノキ, クワが知られる(小島圭三・岡部正明, 1960)。一般には電燈に飛来するものが採集出来ると報告されているものが多い。

兵庫県下で実際に採集された一番古いのは小林桂助氏の自宅のペランダで採集されたものである(1931年7月採集。きべりはむし, Vol. 7, No. 1 : 14, 1979)。たゞ記録ということになると関 公一氏の1933年のものが一番古いことになる(住吉村?沢野芳介氏採集, 昆虫界, Vol. 1, No. 4 : 425, 1933)。次いで同氏の“京阪神を中心とした天牛相”(昆虫界, Vol. III, No. 18/19 : 369-378, 1935)にふくまれているがこちらの方は場所が明示されていない。1940年には筆者が六甲山麓森本山上で級友福永安郎君の採集(lex., 15-VI-1940)した本種を記録した(昆虫世界, Vol. 44, No. 518 : 318, 1940. 学名は神谷, 安立両氏の図鑑によったので命名者名をPascoeとしている。関氏の1933年の報文もそのようになっていた)。再び関 公一氏は1941年に六甲山を記録された(昆虫界, Vol. 9, No. 89 : 453, 1941)。その後柴内俊次, 中畔史雄の両氏は住吉村と御影で溝口宏二氏が採集(VI-1949)されていることを報ぜられた(神戸虫便り, 札幌昆虫同好会々報, Vol. II, No. 1 : 14, 1950)。1972年には辻 啓介氏が湯浅浩史氏採集の神戸明泉寺(長田区)産の標本の図説と共に同地では電燈に毎年数頭づつ飛来することを報告されている(兵庫県のカミキリムシ, 月刊むし,

No.10:17, 1972)。芳賀 馨氏は神大付中校庭産の *lex.* を写真で記録しておられる (14-VII-1973, 芳賀, 1975, 1977)。

筆者はまた神戸生物クラブの鑑定会の席上神戸市の小学生 (山本勝也君) が中央市場で採集したと言う美しい標本を持参されたのを検した (1-VI-1974, 採集)。三木 進氏は1979年8月23日1♀を神戸市内北野天満宮境内で採集されている (きべりはむし, Vol. 7, No.2:30, 1979)。

以上が本種の兵庫県の今迄の記録で不思議なことに神戸市内だけが知られていて他の地に全く記録がないという現象を呈していた。ところが小倉 滋氏はこの種を美方郡浜坂で採集された (1♂, 30-VII-1978)。非常に離れた地点での採集でこれまた大変貴重な記録であると共に本種の県下の分布に新しい課題を提供してくれた情報である。尚氏は食樹の1つにネムではないかと疑問をなげられているのも本種の生態解明上の手がかりになると思われる (きべりはむし, Vol. 7, No.1:20, 1979)。

### 3. *Olemocamptus formosanus* Pic

#### タカサゴシロカミキリ

本種は Pic が、1914年台湾産で記載された種である (Mat. Longic. Vol. X, No.1:19)。1934年に神谷一男・安立綱光両氏は台湾産を図説された (原色甲虫図譜, pl.42, f. 4)。関 公一氏は本州から初めての記録を須磨一の谷産 (*lex.*, 5-VII-1932) でされた (昆虫界, Vol. 7, No.64:307-310, 1939)。その時小林桂助氏が大阪でも採集していると記しておられるが詳しいデータは無い。その年筆者は神戸市兵庫区烏原貯水池畔で室井 緯博士と一緒に採集に行った際1♂ (20-VII-1939) を得報告した (昆虫界, Vol. 7, No.70:787, 1939)。また同年増田 寛氏も高取山での産を報ぜられた (2 exs., 12-VII-1939) (虫の世界, Vol. III, No.5/6:94, 1939)。1940年発行された水戸野武夫氏著の“日本産鞘翅目分類目録, Pars. 8, 天牛科”では本種の分布は台湾, 琉球 (徳之島)。日本 (屋久島) となっていて本州での産は記録しておられない。同じ年平山修次郎氏は異常型として広島県尾道産 (VI-1936) を原色で図説された (原色甲虫図譜, pl.48, f. 24, P. 153, 1940)。

1941年には関 公一氏が前に本州から初めて記録された須磨産の1♂をタイプとして本州亜種 *ssp. hondoensis* Seki を記載された (昆虫界, Vol. IX, No.89:453)。その当時広島県尾道では可成り多く産することが報告された (大林一夫, 昆虫世界, Vol. 46:79-80,

1942)。

戦後いち早く関 公一氏は“新日本産天牛科目録”を自刊された。当然タカサゴシロカミキリ *O. formosanus*, 日本 (九州?, 屋久島?)。琉球 (徳之島), 台湾, 本土亜種 *ssp. hondoensis* Seki, 日本 (本州, 九州?) に分けて取扱っておられる。この本土亜種としての取扱は中村慎吾氏が一度使用されている (ニュー・エントモロジスト, Vol. IV, No.1/2:38-44, 1955)。

1955年発行された近畿甲虫同好会編 (カミキリムシ担当, 林 匡夫博士) “原色日本昆虫図鑑, 甲虫編, 全増補改訂版 (pl. 55, f. 1207, P. 173)”において初めて本種の学名を大陸産の *O. octopustulatus* Motschulsky (in Schrencke, Reisen in Amurlgade, II, Coleop., P. 152, pl. X, fig. 3, 1860, Amur “Ibidimorphum”) の亜種としての取扱をされた。この学名の使用はその後本種の生態関係の報文には使用されており草間慶一博士の報文もその様に取扱っておられる (新しい昆虫採集案内, III, 1973)。

1963年に発行された“原色昆虫大図鑑, 第2巻 (甲虫編)”で大林一夫氏は *O. formosanus* と別に *O. octopustulatus* Motschulsky シロモンホソカミキリを図示され分布に本州, 九州, 樺太, 朝鮮, 満州, 北支那, 蒙古, 東シベリヤを掲げておられる (大林氏は樺太小沼産のもので図説もされている。虫の世界, Vol. 4, No. 1/2, pl. 3, f. 4, p. 6-7, 1941)。

1974年の小島圭三・林 匡夫博士の“原色日本昆虫生態図鑑 (I), カミキリ編” (pl.44, f. 4, p. 137) 並びに1975年“学研中高生図鑑, 昆虫, II, 甲虫” (p. 136, 303) (竹中英雄氏担当) では従来通り *O. formosanus* Pic を使用されている。

大林氏が図説された *O. octopustulatus* と1978年の“韓国昆虫分布図”に図説されたもの、小島・林両博士の図説された広島県帝釈峠産 (VI-1962) (1974), 1976年発行の松本むしの会編“長野県のカミキリムシ” (P. 200) の写真、1979年湯沢寛久氏の報文 (月刊むし, No. 102:38) の写真等を見た場合斑紋だけからは別種のような感じを受けるが標本を見られないのでよくわからない。本報文では小島・林両博士の処置に従っておく。

長野県産のものはズミから採集されている。*O. formosanus* の方はノグルミ。サワグルミ, ウリハダカエテ等が食樹として知られている。

さて本種の兵庫県における分布であるが、戦前は筆者がその後鳥原で2♂, 2♀を採集した。鳥原は戦後採集出来ていない。戦前あったノグルミが伐られたからだと思う。戦後も兵庫県下での産は必ずしも多くな

かった(広島・岡山両県には多くいるようである)。産地から見て海岸線沿に分布している種類のようなものである。このことは岡山, 広島両県でも同じような傾向にあるようである。オオシロカミキリと同じ様に日本海側の香住という記録がある。日本海側の調査の要がおいにある。

1979年三木市内で得られた材から羽化した本種6exs., を三木 進氏から見せて頂いた(内1♂恵与さる)。他にも5exs. 程羽化したと。さらに三木市の小倉 滋氏宅を訪問、全じく三木市内で採取されたノグルミを見せて頂いたが(1979年6月23日)。多数の本種が羽化しており勝手に逃げてゆくものもあつたが小倉氏も余り標本にしてもと2~30exs. 位を標本にしておられるようであり、筆者も同氏の御好意で生きた12exs. を頂いた。とにかくこの様に多くの本種が僅か数本のノグルミから羽化するのに野外での採集ではなかなか困難である。余談ではあるが当日同じく三木市内採取の材より羽化採集されたチャイロホソヒラタカミキリを10数頭見せて頂き内1ex. 御恵与頂いた(6月1日採集)。本種も今迄県下での産が余り知られていなかった種である。

一応兵庫県下の記録を全部記しておく。

津名郡津名町大町〔堀田, 1971〕。三原郡諭鶴羽山〔久松, 1974〕。洲本市下加茂, 先山〔堀田, 1979〕。芦屋市〔巖〕。神戸市布引〔柴内〕。鳥原(1♂, 20-VII-1939, 2♂, 2♀, 11-VII-1941)。高取山〔増田, 1939。鳥居, 1962〕。三木市福井〔三木, 1978〕。三木市内(1♂, 3-VI-1979, S. Miki leg., 13exs., 23-VI-1979, S. Ogura leg.)。加西市畑(3♂, 17-VI-1974)。多紀郡円南町竜蔵寺町〔辻, 1964〕。水上郡神楽〔山本, 1958〕。城崎郡香住〔新しい昆虫採集, 下, 1959〕。宍粟郡波賀町赤西〔4exs., 22-VII-1979, Miki & Hatanaka leg.〕

本種の幼期, 生態に就いては黒田裕一氏(昆虫学評論, Vol. V, No. 1: 41-46, 1950)。中村慎吾氏(ニューエントモロヂスト, Vol. IV, No. 1/2: 38-44, 1959., げんせい, Vol. IV, No. 1/2: 54-55, 1957)。小島圭三・岡部正明“日本産カミキリムシ食樹総覧”(1960)の夫々貴重な報文がある。

香川県小豆島(小豆郡池田町)においてもシイタケ栽培に使用されているノグルミのほだ木にひどい害を与えていることを報告されている(げんせい, 18: 5-8, 1968. 21: 8, 12, 1970)。

本種の分布は台湾から北へ南西諸島(種子島, 屋久島, 奄美大島, 徳之島)。四国, 九州, 対馬, 隠岐島, 本州となっているが、本州では飛騨地方, 大阪府, 兵

庫県, 岡山県, 広島県下となっている(新しい昆虫採集, 下, 1959, P. 430。但し本書では*O. octopustulatus*の亜種として本種を扱っている)。(12-X-1980)

(S. 45: TOSHIRO TAKAHASHI

神戸市

#### (付記)

オオシロカミキリの兵庫県下で採集された一番古いのは小林桂三氏採集の六甲の小林氏自宅のベランダの燈火に來たものであるが文献上での記録の一番古いものは関氏の報文であるとしたが之は誤りで文献上での記録も小林桂三(賢三)氏の報文“大阪附近の天牛”の中で記録しておられる方が古い(関西昆虫学会々報, No. 3, p. 77, 1932), 従って名実共に本種の県下で一番古い記録は小林桂三氏採集のものである。

またタカサゴシロカミキリの近畿、中国地方日本海側の記録として兵庫県の例ではないが島根県日御崎で本種を数頭得たという記録がある(藤村俊彦, 新昆虫, 10巻, 5号, p. 21, 1957)。

## 9月に羽化したツマキチョウ

広畑 政己

本種の飼育個体の中に、頻度は極めて少ないが、翌春羽化せずに、翌々春に羽化する個体のあることが報告されているが、この度羽化したものは越冬をしないうでその年の9月に羽化したものである。

この個体は、1980年4月26日に兵庫県神崎郡福崎町の市川堤防に生えていたハクサンハタザオに産卵されていたもので、イヌガラシで飼育をし、蛹化したものである。

蛹化後すぐ冷蔵庫に入れ、8月下旬までそのままの状態で保管していたが、低温期が約3ヶ月あったので、秋に羽化するかもしれないと考え、8月下旬に冷蔵庫から出して室内に置いていたところ、9月23日に♂が羽化した。

個体は後翅が完全に伸びなかった程度で、斑紋などは普通の個体との差異はない。

種を存続させるには、幼虫が日長や温度などの外的要因をまちがいに読み取り、最も適切な時期に羽化しなければならないわけであるが、本種の場合は、何ヶ月かの低温期を経過し、その後羽化に必要な温度が得られれば羽化するというメカニズムが組み立っているように思える。しかし、低温処理したのは1例でもあり、この推測は間違っているかもしれない。

いずれにしても秋に羽化した例は珍しいと思われるので報告する。

(S28: MASAMI HIROHATA 姫路市)

# 兵庫県 of シルビアシジミ

広畑 政 己

## 1. はじめに

東洋熱帯に広く分布する本種は、国内では南は南西諸島から北は栃木県に至るまでその分布が知られている。

ヒロオビミドリシジミ、キマダラルリツバメと並んで、兵庫県で最初に発見されたことから本県には緑の深い蝶でもある。

人目につきやすい大型の蝶と違って、地味で小さい上にヤマトシジミと類似しているの、よく確かめないと混同しやすいが、ヤマトシジミとは(1)前翅中室内に黒斑がないこと。(2)前後翅裏面亜外縁の斑紋がくさび状になっていること。(3)後翅裏面第6室の黒斑は第7室の直下にあることなどから区別できる。また飛翔力はヤマトシジミより弱く、表面裏面の色調も深いので、見慣れると飛んでいる姿からでも判断できる。

県下ではこれまで約60ヶ所の産地が報告されているが、この度の調査で5ヶ所の新しい産地を発見した。生息場所が河川の堤防や田畑の畦、池の土手などの明るい草地で、ミヤコグサが生育しているという指標があるので、ほとんど調べ尽されていると考えていたが、5ヶ所にも及ぶ産地が発見されたことは予想外であった。これは前述の通りヤマトシジミに類似するので、本種に巡り合う機会があっても採集されないことや、地味でさほど美しくもないので、関心を持つ人が少ないことに起因しているのではないだろうか。従って今後よく調査を行えば、まだまだ生息地は発見されると思われる。しかし、従来の多産地で今は絶滅したと思われる場所も各所で見られ、環境破壊が本種に及ぼす影響も多大である。このように人為的影響によって衰退する場合もあれば、逆に本種の維持につながる場合もある。本稿ではこれらの要因と生態面で若干の知見が得られたので、これまでに報告された既知産地と、その後発見された新しい産地とを合わせて報告した次第である。

まだ調査も不十分で、憶測で述べた部分も各所に見られるが、今後本種の生活史説明の一資料として御活用いただければ幸せである。

本稿を草するに当たり、山本広一氏には既知産地について詳しく御教示いただいた。また、石井為久、入江照夫、岩村巖、宇野正紘、尾崎勇、木下賢司、高橋寿

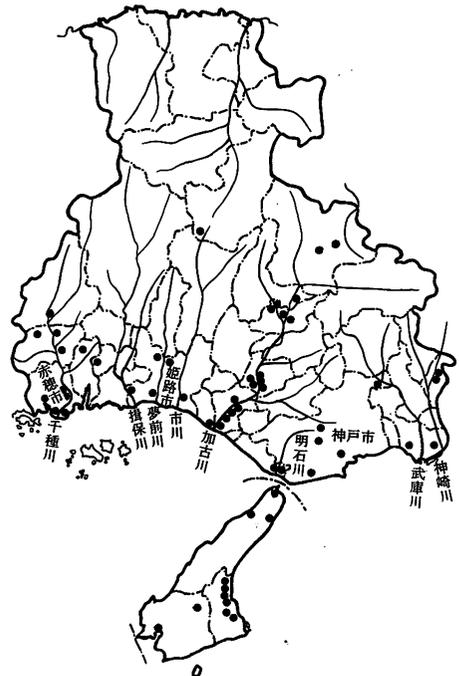
郎、吉田豊の諸氏には採集記録の提供を仰ぎ、助言をいただいた。深く感謝申し上げる。

## 2. 分布について

食草の分布が広いということもあって、どこにでも生息しているような種でありながら、思いのほかその生息範囲は少ない。

これまで確認されている生息地は、図1.の通り、県下の南部に点在している。県下南東部の調査は行っていないが、南西部の調査の結果では、既知産地の内、現在も多数の個体が見られるのはごく一部の地域だけで、産地を数回訪れて成虫や卵を探しても本種を見ることができず、絶滅したと思われる産地が数ヶ所もある。この要因は、(1)手入れがされないで雑草が繁茂し、ミヤコグサが絶えた。(2)生息地域の河川の堤防の改修によって環境が破壊されたことなどが上げられる。

図1. 兵庫県に於けるシルビアシジミの分布



分布が局限される上に本種は飛翔力も弱く、行動範囲も狭いので、このように一端環境が破壊され、食草が一時的に絶えると、たとえ後に食草が生えることがあっても再び本種の姿を見ることはできない。

千種川、加古川、夢前川などの河川下流の産地は、コンクリートブロックなどによって堤防が改修され、所によってはサイクリングロードや公園に転用されている。また、市川、揖保川下流の産地も50cm~1mに及ぶ雑草がおい茂り、ミヤコグサも本種も見ることができない。

放置された宅地造成地などでミヤコグサが咲いているのを見かけることがあるが、2~3年もすればスキ、ヨモギ、セイタカアワダチソウなどの植物や灌木におおい隠され、いつの間にかその姿はなくなっている。

ミヤコグサの生育できる条件は、埴生が洪水で流されたり、人為的な影響によって他の植物の生育が抑制される明るい場所のようである。

農業が機械化される以前は、田畑は牛馬によって耕され、河川の堤防や田畑の土手の草は重要な飼料として使われていた。また農業に従事する人も多く、現在雑草が繁茂しているところも、堆肥などをつくるため頻りに草刈りが行われていたので、ミヤコグサの生育地はもっと多く、これに依存している本種の生息地も河川の堤防からその付近一帯の田畑の土手などかなり広い範囲に及んでいたのではないと思われる。現在でも田畑の畦や池の土手は比較的手入がよく行き届いているが、本種の個体数が多かった河川下流の地域は、前述の通り環境が一変し、確かな生息地は極めて少なくなっている。

これまでに判明している採集記録を産地別に各々1例づつ上げると次の通りとなる。

〈兵庫県下に於ける採集記録〉

赤穂市尾崎	3♂ 2♀	27 VI 1963	岩村 巖 <sup>1)</sup>
"  野中	2♂	7 IX 1963	西垣健治 <sup>1)</sup>
"  大津	1♂	10 X 1965	岩村 巖 <sup>1)</sup>
"  目坂	1♂ 1♀	13 IX 1969	粉引俊宏 <sup>1)</sup>
"  上飯屋新港	26♂ 12♀	27 VII 1976	松村邦正 <sup>1)</sup>
赤穂郡上郡町赤松	1♂	8 VII 1978	広畑政己
"  "  神明寺	2♂	20 V 1979	広畑政己
"  "  市原	1♀	8 VII 1978	石井為久
佐用郡上月町円光寺	2♂	16 VII 1978	広畑政己
相生市矢野町瓜生	3♂ 8♀	4 VII 1967	唐土洋一 <sup>2)</sup>
竜野市東光寺	1♂	5 VIII 1979	広畑政己

姫路市広畑区広畑	4♂ 1♀	— IX 1959	岩村 巖 <sup>3)</sup>
"  余部区上川原	21♂ 16♀	6 IX 1959	岩村 巖 <sup>3)</sup>
"  書写山	2♂ 3♀	6 IX 1959	岩村 巖 <sup>3)</sup>
"  東阿保	7♂ 5♀	16 VIII 1960	岩村 巖 <sup>3)</sup>
"  大野峠	多数	18 V 1957	林 久男 <sup>7)</sup>
朝来郡生野町栃原	1♀	5 IX 1951	武田博允 <sup>10)</sup>
加古川市友沢	1♀	18 XI 1958	吉阪道雄 <sup>4)</sup>
"  神野	多数	29 IV 1963	尾崎 勇
"  稲屋	多数	29 IV 1963	尾崎 勇
"  日岡	2♂ 2♀	29 IV 1963	尾崎 勇
"  平荘町升田	多数	8 IX 1959	中谷貴寿 <sup>20)</sup>
高砂市相生橋付近	多数	10 IX 1959	中谷貴寿 <sup>20)</sup>
小野市下来住町	1♀	5 VII 1931	山本広一
"  "  鴨池	1♂	20 VI 1958	山本広一
"  大島町	1♂	15 VI 1945	山本広一
"  葉多町	3♂ 2♀	30 VI 1947	山本広一
"  下大部町	1♀	24 VI 1950	山本広一
明石市人丸神社付近	4♂	17 X 1959	中谷貴寿 <sup>20)</sup>
"  明石川国鉄鉄橋付近	3♂ 4♀	17 X 1959	中谷貴寿 <sup>20)</sup>
神戸市兵庫区山の街	1♀	9 VIII 1949	中畔史雄 <sup>6)</sup>
"  北区道場町	—	—	尾崎 勇
"  須磨区車字大道	1♂	9 VIII 1964	三木 進 <sup>11)</sup>
"  山田町	—	—	— <sup>5)</sup>
"  摩那山	5exs	— 1960~1961	— <sup>23)</sup>
西宮市夙川	1♂ 1♀	29 VIII	— 矢代 学 <sup>12)</sup>
尼崎市田能	数頭	— 1978	宇野正紘
川西市笹部	2♂ 3♀	中旬VII	— 中畔史雄 <sup>6)</sup>
"  能勢一の鳥居	3♂ 4♀	19 IX 1948	吉阪道雄 <sup>4)</sup>
西脇市市原	—	—	— 吉田 豊
"  津万	1♂	5 IX 1958	猪股涼— <sup>24)</sup>
"  武島山近辺の川原	—	9 IV 1961	— <sup>25)</sup>
"  西林寺	—	—	— <sup>24)</sup>
多可郡黒田庄町	—	—	— <sup>24)</sup>
水上郡春日町黒井	1♂	7 VIII 1952	越知研一郎 <sup>8)</sup>
"  水上町生郷	多数	20 VIII 1952	越知研一郎 <sup>8)</sup>
洲本市津田	1♂	11 V 1980	広畑政己 <sup>9)</sup>
"  安乎町	1♂ 1♀	1 IX 1951	堀田 久 <sup>13)</sup>
"  中河原町	1♂	3 X 1952	堀田 久 <sup>13)</sup>
"  下加茂	1♂ 1♀	— 1977	浅田 卓 <sup>14)</sup>
"  千種	1♀	8 V 1950	吉阪道雄 <sup>4)</sup>
"  竹原	1♀	15 VIII 1951	田中 蕃 <sup>13)</sup>
津名郡北淡町富島	—	2 VIII 1952	越知研一郎 <sup>15)</sup>
"  東浦町釜口	2♂ 1♀	11 V 1980	広畑政己 <sup>9)</sup>
"  淡路町松帆崎	1♂	10 VIII 1959	中谷貴寿 <sup>20)</sup>
三原郡緑町中山峠	2♂ 1♀	10 IX 1978	近藤伸一 <sup>14)</sup>
"  南淡町福良水源地	2♂	9 X 1958	中谷貴寿 <sup>20)</sup>

前記以外で既知産地がまだあるかと思われるが、筆者の知る限りではこの通りである。採集記録の中に久崎の地名がないが、これは円光寺と思われるのでここには記していない。また姫路市東阿保は、岩村(1961)の市川堤防のことであり、この他にも新地名を使用しているところがある。

例記した記録はすべてが兵庫県南部の記録で、北部からはまだ一編の報告もないが、円山川、出石川の堤防にミヤコグサが生えているのを木下賢司氏が確認しておられるので、今後これらの地域から本種が発見されることを期待したい。

### 3. 草刈りと火入れの影響

上郡町赤松の河川沿の田畑の土手は年数回の草刈りが行われ、写真1.のように農道としてきれいに整備されている。そして冬期には毎年消防団の手によって火入れが行われているようである。それにもかかわらず本種は健在で、1978年～1980年にかけてその生息を確認している。

一般的に食草が取り払われると悪影響を及ぼすものであるが、本種に関してはかえって草刈りが幸いているようである。このことは雑草が繁茂し、現在絶滅したと思われる地域と、個体群の密度を維持している手入れの行き届いた地域の差となって現れている。

草刈り後の状況をよく観察してみると、ミヤコグサは地面を這うように生えているので、刈り取られずに残っているものも多く、刈り取られた後にはすぐ新しい芽が出ている。草刈りによって卵は取り除かれるが、成虫の発生がだらだらと続くので、この新しい芽に好んで産卵をしている。また幼虫も食草を揺り動かすと落下もするので、草刈りによって完全に生息地から本種が取り除かれるということはないようである。

草刈りについては前述の通りであるが、問題は火入れである。以前から火入れされてもなぜ個体群の密度が低下したり絶滅しないのかという疑問はもっていたが、焼かれなかった場所から飛来したか、焼け残った所にいた個体が見られるのだと考えていた。ところが1980年2月3日に当地を訪れた時、火入れが行われ、本種が生息している約200mの土手は、写真2.のようにヒガンバナ、ジャノヒゲなど冬期に緑の葉を持つ植物を除外すると、そのほとんどが焼きつくされ、本種が絶滅したのではないかと心配していた。しかし、同年4月29日に同地を訪れて見ると、まぎれもなく本種が見られ、それも1、2頭ではなく10数頭確認できた。

赤松での生息場所は約200m程の農道の土手だけで、

近辺の田畑の畦は、よく調査を行ったが、ミヤコグサも本種も確認していない。それ以外の場所から飛来したことも考えられるが、生息地の状況から判断すると火入れには遭遇したが、難を免れて生き残ったのでは

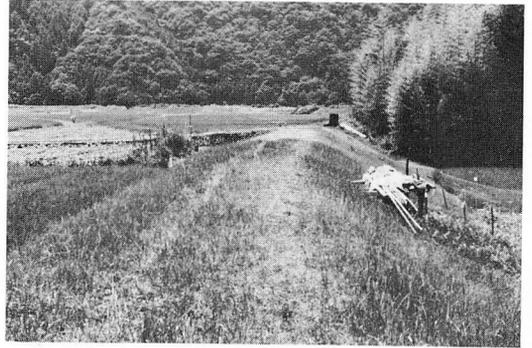


写真1. シルビアシジミの生息地  
1979年8月5日・上郡町赤松



写真2. 火入れ後の土手  
1980年2月3日・上郡町赤松



写真3. ノチドメに静止しているシルビアシジミ  
1979年8月5日・上郡町赤松

ないかと思えてならない。

岩城 (1971) に、草原に火入れをした場合、越冬芽に与える影響についての研究報告がある。それによると、シバ草原に火入れをした場合、地上 2 cm の高さ以下の所では温度の上昇はあまりなく、越冬芽には悪影響を与えないとのことである。

本種による実験でもなければ火入れ後に幼虫を発見したのでもないので、飛躍した推測になるが、幼虫が地表近くで越冬しているとすれば、生き残れる可能性もないとはいえない。

同じように冬期に火入れが行われる杉ヶ沢高原は、ヒョウモンチョウ類が多産し、ススキ草原の所々に生えるカシワにはハヤシドリが発生している。最近では 1979 年の冬期に火入れが行われたが、その年の夏にはヒョウモンチョウ類は多産し、草原の中のカシワからはハヤシドリシジミは発見されていない。これは地表近くで越冬しているヒョウモンチョウ類の幼虫は火の被害を受けず、高温にさらされる木に産卵されているハヤシドリシジミは生き残れなかったのではないと思われる。

これらの真相は浅学非才な筆者には解るすべもないが、いずれにしても毎年草刈り火入れが行われている上郡町赤松では本種が衰退することなく、同じ場所で毎年多数の個体を見ることが出来る。

#### 4. 基本食草は何か

川副・若林 (1976) によると、本種の食草としてマメ科のミヤコグサ、コマツナギ、ヤハズソウ、ウマゴヤシ、コメツブウマゴヤシ、シナガワハギ、コウマゴヤシ、ムラサキウマゴヤシ、ハイメドハギ、シナガワハギ、ハマササゲなど 10 数種が報告されている。

県下に於ても前記の種のいずれかに依存していると思われるが、この度の上郡町赤松の調査では、ミヤコグサとコマツナギに産付された卵を確認した。

調査に当っては、同じマメ科植物を食するツバメシジミの卵との混同をさけるため、本種の♀を追跡したところ、ミヤコグサに 4 例、コマツナギに 1 例卵を産み付けるのを確認した。ヤハズソウにも産卵行動をとったが、卵は確認していない。

尼崎市田能では宇野正紘氏がヤハズソウに産卵しているのを目撃しておられるが、コマツナギからは発見されなかったようである。この他の記録として、中谷 (1960) のコマツナギがあるが、兵庫県に於てはこれらの種が主な食草となっているようである。

この 3 種を比較してみると、花期が春のものと夏のものに区別することができる。前者がミヤコグサであり、後者がコマツナギ、ヤハズソウである。ミヤコグサは一年中花をつけるが主として春に多くの花をつける。

春に花をつける種は芽吹きも早く、ミヤコグサは 2 月には新芽が出ている。しかし、コマツナギ、ヤハズソウは 4 月下旬になっても芽がなく、確認はしていないが 5 月上旬にならないと芽が伸びないのではないかと思われる。

シルビアシジミの自然状態での越冬形態については確認されていないが、入江 (1980) は、野外飼育の結果幼虫越冬をつきとめている。おそらく主な越冬形態は幼虫であると思われる。

越冬した幼虫が 4 月下旬に成虫になるとすれば、気温の上昇する 3 月頃から摂食しなければならない。その時期に摂食できる食草はコマツナギ、ヤハズソウではなくミヤコグサなのである。

越冬した幼虫は 3 月ごろからミヤコグサを食し、第 1 化の個体として 4 月下旬～5 月上旬に発生するものと推測する。ヤハズソウ、コマツナギは第 1 化以降の個体が 2 次的に取り入れた食草ではないだろうか。夏季にはミヤコグサは雑草の中に埋もれてしまう場合が多く、コマツナギ、ヤハズソウの方が目に付きやすい。本種がこれらの食草を取り入れた要因もこの辺にあるのかもしれない。

県下南西部の本種の生息地を見ると、ミヤコグサがなく本種が生息している所はないようであり、前述の理由からも、基本食草はミヤコグサと言える。

#### 5. 周年経過について

県下に於ける発生時期の最も早い記録としては 4 月 9 日<sup>25)</sup>があるが、幼虫で越冬した場合は 4 月上旬の発生の可能性は薄いので、もしかすると蛹で越冬したものかもしれない。筆者が調査した上郡町赤松では、4 月 29 日に新鮮な個体と汚損したものが混飛しており、これらの個体の鮮度から判断すると、4 月 20 日前後から第 1 化の個体が発生しているようである。

また最も遅い記録は、中谷 (1959) の 11 月 22 日がある。発生時期については、その年の気温によって多少の変動があり、一概には言えないが、4 月下旬から 11 月中旬までが本種の活動期間と思われる。

筆者の手許にある記録の内、時期と個体数がはつきりしているものをまとめてみると、表 1. のようになる。

表1. シルビアシジミの月別採集数表

月 採集 個体 別	4			5			6			7			8			9			10			11		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
♂		3	1	14	1		1	13	7	4	26	15	8	2	43	24			12	7	2			1
♀		3	1	4				8	18	3	12	15	7	1	27	12			4	6	4			5

この表を参考に、飼育による成虫までの所要日数などを加味すると、4月下旬に発生した1化の個体が順調な経過を辿れば、2化の個体は6月中下旬になり、3化が8月上旬ごろ、4化が9月下旬ごろ、5化が11月上旬ごろに発生することになる。しかし、飼育をしても幼虫の成長の早さにはばらつきがあるように、自然状態ではこのように順調にいかないと思われる。従って、2化以降の個体は世代の違うものが混飛し、10月下旬から11月にかけては4化のものと5化のものが見られるのではないかと推測する。

越冬形態については上郡町赤松に2度調査に訪れたが、残念ながらその手がかりはつかめていない。本種をはじめ多化性の蝶はツマグロヒョウモンやクロツバメシジミのように決った越冬形態というものはなく、越冬できる形態で冬を迎えた個体だけが生き残るように思われる。

県下での越冬形態の記録としては、前述した入江(1980)の野外飼育の記録しかないが、その大半が終令虫越冬と思われる。しかし第1化の個体の発生時期のばらつきなどを考えると、若令から蛹までの形態も充分考えられるが、この点は今後充分調査を行い、その解明に当りたい。

6. おわりに

この小さな蝶を追いかけて再三調査を行ってきたが、生態面での調査の進展は少なく、憶測が先走って甚だまとまりの報告になってしまった。

分布については先輩諸氏の精力的な調査によって、その大略が明らかにされているが、生態面ではまだまだ未知の部分が多い。

本稿ではこれらの生態面で、食草を中心に種の栄枯盛衰にまつわる問題を取り上げてきたが、周年経過や越冬形態などは問題を提起した程度に終わったのは残念であった。

マレー型の分布をしている本種が、本県で生活するために、さまざまな面で県下の自然に適應し、種を維持していると思われるが、これらの諸問題について今後明らかにされるのを期待したい。

参 考 文 献

- (1) 岩村 巖 (1979) 西播の蝶分布資料(6)ひろおび No.4
- (2) 岩村 巖 (1968) 西播の蝶分布資料(5) 兵庫生物 Vol. 5 No.5
- (3) 岩村 巖 (1961) 西播の蝶分布資料(1) 兵庫生物 Vol.4 No.2
- (4) 日浦 勇 (1970) 日本列島の蝶 (II) 大阪市立自然科学博物館 大阪
- (5) 山本広一・吉阪道雄 (1959) 兵庫県産蝶類目録(2) 兵庫生物 Vol.3 No.5
- (6) 中畔史雄 (1950) 神戸市近郊に於けるシルビアシジミの新産地 採集と観察No.27
- (7) 林 久男 (1957) 姫路市のシルビアシジミの産地 MDKNEWS Vol.10 No.1
- (8) 越知研一郎 (1952) 今年の新しい蝶 Natura No.8
- (9) 広畑政己 (1980) 淡路島の蝶調査報告 Parnassius No.23
- (10) 西村公夫 (1952) 中国昆虫学会報 Vol. 2 No.2
- (11) 三木 進 (1979) 六甲山系の蝶 きべりはむし Vol.7 No.1
- (12) 八代 学 (1971) シルビアシジミの一産地 MDKNEWS Vol.23 No.2
- (13) 登日邦明 (1974) 淡路島の蝶相 (II) 佳香蝶 Vol.26 No.99
- (14) 浅田 卓 (1978) 淡路産蝶類採集目録 Parnassius No.19
- (15) 吉阪道雄 (1954) 京阪神蝶類目録MDKNEWS別冊
- (16) 富士原芳久(1954) 尼崎市小中島のシルビアシジミについて Saphyrinus Vol.2 No.4
- (17) 中山順一郎・中島秀和(1952) LILAC Vol.1 No.2
- (18) 川副昭人・若林守男 (1976) 原色日本蝶類図鑑 保育社 大阪
- (19) 入江照夫 (1980) シルビアシジミの飼育日記 ひろおび No.5
- (20) 中谷貴寿 (1960) 兵庫県に於けるシルビアシジミの新産地 MDKNEWS Vol. 13 No.2
- (21) 中谷貴寿 (1959) 加古川の蝶MDKNEWS Vol.12No.1
- (22) 岩城英夫 (1971) 草原の生態 共立出版 東京
- (23) 阪神学生生物研究会 (1965) 六甲の蝶類 BIOLOGIE No.7
- (24) 猪股涼一・岡本清 (1960) 多可・西脇地方の昆虫 兵庫生物 Vol.4 No.1
- (25) 西脇自然同好会 (1965) 会報 Vol.1 No.1

S28 MASAMI HIROHATA 姫路市

# 姫路市の昆虫

相坂耕作

## はじめに

昆虫を友としもうすぐ20年になる。しかし案外と他県へ採集や調査にいたり、県下でも深山へ採集調査に行くなどして肝心の地元姫路市ではあまり昆虫相の解明には取り組んでいないと自己反省しており、また当同好会諸氏も同じく郷土は見過ごしている現状である。

県下には昔から多くの同好会があるが、郷土の解明は、やはり筆者らの姫路昆虫同好会が最適ではないだろうかとあえて筆をとることにした。

姫路市は兵庫県の南西部に位置し、中国山地の緑の壁に包まれた「播磨平野」の豊かなみりと波静かな瀬戸内海に面し、昔から海陸交地の要地であった。

市は飾磨区・広畑区・大津区・勝原区・網干区・余部区の6区がありその他に旧市内とそれをとりまく林田町・船津町・豊富町・山田町その他新市内を含め播磨工業地帯の中心をなしている。

総面積270.55km<sup>2</sup>、人口44万4,007人(S. 54. 3. 31現在) 世帯数12万1,365戸で市木にカシ、市花にサギソウを定め有名な国宝姫路城があり、手柄山公園、名古屋山霊苑など観光地として有名であり、西の比叡山と呼ばれる書写山(363m)や随願寺のある増位山(259m)広峰神社のある広峰山など有名な山々がある。また市を流れる河川としては揖保川・林田川・大津茂川・夢前川・菅生川・船場川・野田川・八家川・市川・天川などがある。

筆者は今回筆者自身が採集調査したものを中心に手持ちのデータや姫路市立科学館の児童生徒の採集データなども利用させて頂き、また姫路昆虫同好会員諸氏にも協力願い姫路市の昆虫解明のタタキ台としてまとめてみた。

2分野に分けてその1を蝶相、その2を蜻蛉相として記してみた。

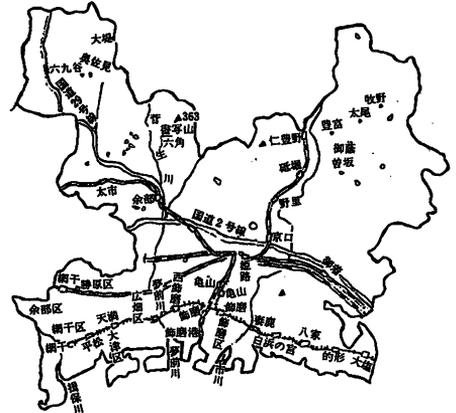
## I. 姫路市の蝶相

### (1) 代表的な種類に関して

#### ギフチョウ (*Luehdorfia japonica* LEECH)

県下では西播磨地方を除くと比較的多く産するが、姫路市では曾坂から御蔭にかけて多産した模様だが住宅

## 姫路市概念図



や道路に化け姿を消した様である。

1955年の姫路市の展覧会で1♂が出品された記録があるが昔のことではっきりしていない。

昭和44年4月16日付の神戸新聞の朝刊にてギフチョウ姫路で見つかるとの記事が出て一応の記録に残っている。

採集例：姫路市豊富町岩屋 IV-1969

森山克己・山本泉採集

#### ナガサキアゲハ (*Papilio memnon* LINNAEUS)

県下では1951年8月に津名郡で得られ、姫路市に於ては、19-VIII-1959 1♂が姫路市の広畑区にて初に採れた記録があり、その後1980年迄に得られた個体も多く、もはや土着間違いないと思われる。

採集記録を下記に掲げるが近年広畑政己氏の精力的な調査によりナガサキアゲハの県下での分布が詳しく報告されており(ひろおびNo.5.1980. 播磨蝶友会)もはや県下全域に分布している様である。

市内では各庭などに植栽されている柑橘類で育ち土着可能な温度のためと思われる。また夏休み中の理科作品などからも児童生徒の採集品でも多くの個体を見出せたので一応記録にとどめておく。

採集例：広畑区 1♂ 19-VIII-1959 広畑中学生  
網干区浜田 1♂ 21-VIII-1970 稲田知久

採集例：網干区浜田	1♂	26-VIII-1971	稲田知久
広畑区才	1♂1♀	28-VII-1978	松本・坂野
広峰山	1♀	— — 1978	小坂潤一
東山	1♀	— — 1978	—————
広畑区才	2♂1♀	14-VII-1979	松本・坂野
網干区下野	2♀	26-V-1979	大前 晋
” 新在家	1♂2♀	18-V-1980	菅原昭夫
余部区	1♀	29-VI-1980	原田 智
”	1♀	3-VII-1980	”
白浜町	1♂	29-VII-1980	山田隆広
町田	2♂2♀	30-VII-1980	森 康行
本町	1♀	2-VIII-1980	—————
増位山	1♂	2-VIII-1980	小坂潤一
太市 (目撃)	1♀	24-VIII-1980	広畑政己
増位山	1♂	28-VIII-1980	小坂潤一
北平野	1♂	1-IX-1980	藤原陽介
”	1♀	3-IX-1980	”
町田 (目撃)	1♀	3-IX-1980	広畑政己

#### シルビアシジミ (*Zizina otis* FABRICIUS)

この蝶は兵庫県と深い関係のある蝶で *Sylvia* は佐用郡久崎町産がタイプである。

姫路市でもミヤコグサが群生する河川の堤防・池の畔などにより見出されるものと思われる。

採集例：大野峠	多数	18-V-1957	林 久夫
広畑区広畑	4♂ 1♀	6-IX-1959	岩村 巖
余部区上河原	21♂16♀	6-IX-1959	”
書写山	2♂ 3♀	13-IX-1959	”
”	2♀	13-X-1959	中谷貴寿
東阿保(市川河原)	7♂5♀	16-VIII-1960	岩村 巖

#### クロツバメシジミ (*Tongeia fischeri* EVERSMANN)

県下では1953年7月30日松井俊公氏によって宍粟郡山崎町から発見されたこの蝶は生息場所を大別すると屋根の上に生息するタイプと岩場に生息するタイプに二分でき姫路市では前タイプとなり筆者が市内で見たところは古い民家の屋根瓦にツメレンゲが生育して多数発生していたが現在ではツメレンゲは残っているが蝶の姿は見受けない。

近年県下のクロツバメシジミは広畑政己氏により精力的に精査されている。

採集例：亀山	5♂ 4♀	28-X-1970	木村三郎
”	5♂ 3♀	28-X-1970	相坂耕作
”	3♂ 3♀	16-X-1971	”

採集例：竹ノ門	1♂	30-VIII-1976	黒田 収
---------	----	--------------	------

#### キマダラルリツバメ (*Spindsis takanonis* MATSUMURA)

タイプ産地は兵庫県竜野市で1902年福田卓氏である。姫路市での発見は1958年法西氏により姫路市伊伝居から御立に行く途中松林の中で発見とある。

1960年代は姫路市仁豊野付近で多数採集され、筆者は1972年増位山系(ソーメン滝)にて1♂を採集、その後1974年にかけて10数頭を得た。

最近姫路市の西部京見山付近より多数発見されその個体は1978年から1980年にかけて100頭余り得られていると稲田和久氏より私信をいただいた。又隣接する飾磨郡夢前町でも数十頭得られたと聞いている。

採集例：大野峠	8♂ 2♀	19-VI-1958	法西 浩
”	3♂ 4♀	21-VI-1958	”
大池	—————	19-VI-1960	”
仁豊野小坂山	1♂	28-VI-1964	二谷正義
” 池ノ奥	1♂	21-VI-1964	”
”	1♂	21-VI-1964	下野晴彦
”	5♂	1-VII-1971	三浦富生
上砥堀	2♂	28-VI-1972	相坂耕作
”	1♂ 1♀	30-VI-1972	”
”	2♂	4-VII-1972	”
”	1♂ 2♀	25-VI-1973	”
”	2♂ 2♀	24-VI-1974	”
大野峠	1♂	26-VI-1976	黒田 収
勝原区京見山	2♀	19-VI-1979	松本勝由
” ”	1♂	20-VI-1979	”
” ”	1♂	21-VI-1979	”

#### ヒロオビミドリシジミ

(*Favonius latifasciatus* SHIRŌZU & HAYASHI)

本種は兵庫県佐用郡久崎村で得られたのが1934年6月17日山本広一氏により4♂1♀採集されたのが日本で初めてである。西播地方では得られていたが近年食草ナラガシワの分布等を調べていくうち卵が発見された。

採集例：林田町六九谷	1卵	30-III-1980	広畑政己
------------	----	-------------	------

#### メスアカミドリシジミ

(*Chrysozephyras smaragdinus* BREMER)

本種は確実な記録として山本広一氏により飾磨郡夢前町雪彦山のモミジ谷において採集された1♀が県下で最も古い記録のようであり(1954)その後1960年に同地で得られその後も数々得られており県下において

は北西部の中国山地を中心として標高400~900mの山地に広く分布している。

県下の分布は高田忠彦・井手敏晴両氏により精査(兵庫県産蝶類調査報告〔I〕シジミチョウ科)されており、姫路市でもいずれは発見されるものと思っていたが最近尾崎勇氏により姫路市でも卵が発見された。

採集例：林田町六九谷 卵1 尾崎 勇

#### ミズイロオナガシジミ (*Antigius attilia* BREMER)

本種はゼフィルス中最も多く県下でも普通で得られる種類ではあるが、姫路市ではむしろ少く発生地での個体も多くなく逆に珍しい感じである。また市内で異常型も得られている様である。

採集例：上砥堀 1♂ 24-VI-1971 相坂耕作  
 豊富町 1♂ 23-VII-1971 三浦富生  
 大谷 2♂ 10-VI-1972 糞谷 徹  
 広畑区才 1♂ 12-VI-1980 稲田和久

#### ウラキンシジミ (*Ussuriana stygiana* BUTLER)

1931年6月18日山田舜亮氏が須磨の鷹取山麓に発見したのが県下で最初である。

日本特産種であるこの蝶は、一般に山地性であるが相生市や姫路市などの低山地にも多産地が知られている。姫路市では北部山麓に多く見られる様である。

尚姫路市砥堀で1974年6月14日♀の後翅翅表肛角部付近に淡橙色紋の現われた異常型 (*ab. akio* Esaki) が得られている。

採集例：仁豊野 1♂ 3-VII-1971 西川一実  
 上砥堀 1♀ 16-VI-1972 相坂耕作  
 書写山 3卵 8-I-1978 広畑政己

#### ウラゴマダラシジミ (*Artopoetes pryeri* MURRAY)

本種は食樹となるモクセイ科のイボタ、ミヤマイボタが比較的の低山地へ入ると多く、ゼフィルス中ではよく目につく蝶であり5月下旬ころより出現している様で、姫路市の書写山・増位山・広峰山など多く見出される様である。

採集例：上砥堀 1♂ 13-VI-1971 相坂耕作  
 " 2♂ 6-VI-1975 井手敏晴

採集例：林田町奥佐見 1♂ 1-VI-1980 広畑政己  
 " 六九谷 数卵 30-III-1980 "

#### ホシミスジ (*Neptis pryeri* BUTLER)

県下で一番古い記録として1902年福田卓氏は姫路市付近にこの種が産する旨を報告された種であり、姫路市の山地へ行けば比較の見つかる様である。特に姫山公園を含め民家に植栽されている食草ユキヤナギに普通に分布するようであり年2回発生と思われる。

採集例：広峰山 1♂ 30-VII-1956 大西陸子  
 八代 1♂ 8-VI-1958 ——  
 書写山 1♀ 30-VII-1959 室田和夫  
 花田町上原田 1♂ 15-VIII-1960 沢波 溝  
 八代 1♂ 1♀ 16-VIII-1960 岩村 巖  
 書写山 2♂ 1♀ 9-IX-1960 "  
 豊富町 2♂ 15-VI-1971 西川一実  
 勝山町 1♂ 6-VI-1972 糞谷 徹  
 広峰山 2♀ 31-VII-1977 相坂耕作

#### オオムラサキ (*Sasakia charonda* HEWITSON)

県下でも神戸市付近には古くからの好採集地があるが播磨地方では西部の赤穂市や赤穂郡・相生市・佐用郡など採集例は多いが、姫路市では聞いたことがなかったが最近花岡正氏が播但有料道で目撃(1979. VII) 1♀の私信を得た。その後高田忠彦氏より姫路市でもいるとの感触を受け調べて頂いたところ2幼虫を得たとの私信を得た。

採集例：林田町山田 2幼虫 27-XII-1977 白井祐一

#### (迷蝶)

#### メスアカムラサキ (*Hypolimnas misippus* LINNAEUS)

姫路市網干区浜田(木材港)にて数匹。

#### (迷蝶)

#### リュウキュウムラサキ (パラオ型)

(*Hypolimnas polina* LINNAEUS)

24-VIII-1978 1♀ 姫路市豊富町神谷 山本邦明採品

#### ウラナミジャノメ (*Ypthima motschulskyi* BREMER & GREY)

県下では広く分布しているが数は多くないようである。姫路近郊では相生市や赤穂市・佐用郡などで得ら

れていたが最近姫路市広畑区にて得られている。

採集例：広畑区才 1♂ — VI—1978 稲田和久  
 " 西蒲田 2♂ 1♀ 15—VI—1980 "  
 " " 2♀ 21—VI—1980 "

### ヒメヒカゲ (*Cotnyompha oedippus* FABRICIUS)

県下では1903年駒井卓氏により姫路付近に産する旨を記録され播磨地方は古くからヒメヒカゲの産地として有名になっていたが、最近の土地造成に禍され、珍しい蝶になっている。また個体は産地により変化が多く採集者も多い。姫路近辺では相生市・赤穂市などで得られており筆者も姫路市網干区の隣接する揖保郡御津町で得ており近いうち各地で見られる可能性がある種と思われる。

採集例：青山桜山ダム 1♂ 10—VI—1979 坂野  
 小原付近 20♂♀ 18—VI—1978 木村三郎

### キマダラモドキ (*Kirinia epaminondas* STAUDINGER)

近畿地方には稀な種類であるが県下では少ないながら佐用郡佐用町・上月町・三日月町などで比較的得られている。1960年8月2日姫路市船津町で2♂が得られた。しかしそれ以後は採集例を聞かない。

採集例：船津町 1♂ 21—VIII—1959 神南中学生徒  
 " 多田村 2♂ 2—VIII—1960 中谷貴寿

### クロコノマ (*Melanitis phedima* CRAMER)

県下では1951年法西定雄氏により神戸市有馬で得られたのが最初であろう。姫路市では溝口・仁豊野・又揖保郡新宮町篠首にも目撃例がある。

筆者のスクラップブックによると1970年4月29日付の神戸新聞に豊富中学の山口栄一君が姫路市太尾で1♂の秋型採集と載っている。又最近では姫路近郊で次の様な所で採れている。ちなみに揖保郡新宮町、揖保郡御津町、神崎郡市川町、西脇市出合など姫路市を取りまいている。尚姫路では網干区の大セル工場で1♂を黒田収氏が得ている。

採集例：飾磨区中島 1♂ 13—VII—1973 井手敏晴  
 網干区新在家(大セル工場内)1♂6—IX—1979 黒田 収

### (2) 姫路市の蝶リスト

### アゲハチョウ科 (*Papilionidae*)

- (1) ミヤマカラスアゲハ (*Papilio maackii* MENETRIES)
- (2) カラスアゲハ (*Papilio bianor* CRAMER)
- (3) ナガサキアゲハ (*Papilio memnon* LINNAEUS)
- (4) オナガアゲハ (*Papilio macilentus* JANSON)
- (5) クロアゲハ (*Papilio protenor* CRAMER)
- (6) モンキアゲハ (*Papilio helenus* LINNAEUS)
- (7) ナミアゲミ (*Papilio xuthus* LINNAEUS)
- (8) キアゲハ (*Papilio machaon* LINNAEUS)
- (9) アオスジアゲハ (*Graphium sarpedon* LINNAEUS)
- (10) ジャコウアゲハ (*Atrophaneura alcinous* KLUG)
- (11) ギフチョウ (*Luehdorfia japonica* LEECH)

### シロチョウ科 (*Pieridae*)

- (1) ツマキチョウ (*Anthocharis scolymus* BUTLER)
- (2) モンシロチョウ (*Pieris rapae* LINNAEUS)
- (3) スジグロシロチョウ (*Pieris melete* MENETRIES)
- (4) キチョウ (*Eurema hecabe* LINNAEUS)
- (5) ツマグロキチョウ (*Eurema laeta* BOISDUVAL)
- (6) モンキチョウ (*Colias erate* ESPER)

### シジミチョウ科 (*Lycaenidae*)

- (1) クロシジミ (*Niphanda fusca* BREMER)
- (2) シルビアシジミ (*Zizina otis* FABRICIUS)
- (3) クロツバメシジミ (*Tongeia fischeri* EVERSOMANN)
- (4) ツバメシジミ (*Everes argiades* PALLAS)
- (5) ルリシジミ (*Celastrina argiolus* LINNAEUS)
- (6) ヤマトシジミ (*Pseudozizeeria maha* KOLLAR)
- (7) ウラナシジミ (*Lampides boeticus* LINNAEUS)
- (8) ゴイシジミ (*Taraka hamada* DRUCE)
- (9) ベニシジミ (*Lycaena phlaeas* LINNAEUS)
- (10) コツバメ (*Callophrys ferrea* BUTLER)
- (11) キマダラルリツバメ (*Spindasis takanonis* MATSUMURA)
- (12) トラフシジミ (*Rapala arata* BREMER)
- (13) ヒロオビミドリシジミ (*Favonius latifasciatus* SHIROZU & HAYASHI)
- (14) メスアカミドリシジミ (*Chrysozephyrus smaragdinus* BREMER)
- (15) オオミドリシジミ (*Favonius orientalis* MURRAY)
- (16) ミドリシジミ (*Neozephyrus taxila* BREMER)
- (17) ウラジロミドリシジミ (*Favonius saphirinus* STAUPINGER)
- (18) ミズイロオナガシジミ (*Antigius attilia* BREMER)
- (19) ウラナミアカシジミ (*Japonica saepestriata* HEWITSON)
- (20) アカシジミ (*Japonica lutea* HEWITSON)
- (21) ウラキンシジミ (*Ussuriana stygiana* BUTLER)
- (22) ウラゴマダラシジミ (*Artopoetes pryeri* MURRAY)
- (23) ムラサキシジミ (*Narathura japonica* MURRAY)

## テハチヨウ科 (Nymphalidae)

- ) ウラギンズジヒョウモン (*Argyronome laodice* PALLAS)  
 ) メスグロヒョウモン (*Damora sagana* DOUBLEDAY)  
 ) ミドリヒョウモン (*Argynnis paphia* LINNAEUS)  
 1) クモガクヒョウモン (*Nephargynnis anadyomene* C. & R. FELDER)  
 5) ウラギンヒョウモン (*Fabriciana adippe* LINNAEUS)  
 6) オオウラギンズジヒョウモン (*Argyronome ruslana* MOTSCHULSKY)  
 7) ツマグロヒョウモン (*Argyreus hyperbius* LINNAEUS)  
 8) アサマイチモンジ (*Limenitis glorifica* FRUHSTORFER)  
 9) イチモンジチョウ (*Limenitis camilla* LINNAEUS)  
 10) コミスジ (*Neptis sappho* PALLAS)  
 11) ホシミスジ (*Neptis pryri* BUTLER)  
 12) サカハチチョウ (*Araschnia burejana* BREMER)  
 13) キタテハ (*Polygonia aureum* LINNAEUS)  
 14) スミナガシ (*Dichorragia nesimachus* BOISDUVAL)  
 15) ヒオドンチョウ (*Nymphalis xanthomelas* DENIS & SCHIFFERMÜLLER)  
 16) ルリタテハ (*Kaniska canace* LINNAEUS)  
 17) ヒメアカタテハ (*Cynthia cardui* LINNAEUS)  
 18) アカタテハ (*Vanessa indica* HERBST)  
 19) コムラサキ (*Apatura ilia* DENIS & SCHIFFERMÜLLER)  
 20) ゴマダラチョウ (*Hestina japonica* C. & R. TELDER)  
 21) オオムラサキ (*Sasakia charonda* HEWITSON)

- 迷蝶 メスアカムラサキ (*Hypolimnas misippus* LINNAEUS)  
 迷蝶 リュウキュウムラサキ (*Hypolimnas bolina* LINNAEUS)

## ウラギンシジミ科 (Curetidae)

- (1) ウラギンシジミ (*Curetis acuta* MOORE)

## マダラチヨウ科 (Danaiidae)

- (1) アサギマダラ (*Parantica sita* KOLLAR)

## テングチヨウ科 (Libytheidae)

- (1) テングチョウ (*Libythea celtis* FUESSLY)

## ジャノメチヨウ科 (Satyridae)

- (1) ヒメウラナミジャノメ (*Ypthima argus* BUTLER)  
 (2) ウラナミジャノメ (*Ypthima motschulskyi* BREMER & GREY)  
 (3) ジャノメチョウ (*Minois dryas* SCOPOLI)  
 (4) ヒメヒカゲ (*Coenonympha oedippus* FABRICIUS)  
 (5) クロヒカゲ (*Lethe diana* BUTLER)  
 (6) ヒカゲチョウ (*Lethe sicelis* HEWITSON)  
 (7) サトキマダラヒカゲ (*Neope goschkeutichii* MÉNÉTRIÈS)  
 (8) キマダラモドキ (*Kirinia epaminondas* STAUDINGER)  
 (9) ヒメジャノメ (*Mycalasis gotama* MOORE)  
 (10) コジャノメ (*Mycalasis francisca* CRAMER)

(1) クロコノマ (*Melanitis phedima* CRAMER)

## セセリチヨウ科 (Hesperiidae)

- (1) ミヤマセセリ (*Erymnis montanus* BREMER)  
 (2) タイミョウセセリ (*Daimio tethys* MÉNÉTRIÈS)  
 (3) アオバセセリ (*Choaspes benjaminii* GUERIN-MÈNÉVILLE)  
 (4) コチャバネセセリ (*Thoressa varia* MURRAY)  
 (5) キマダラセセリ (*Potanthus flavum* MURRAY)  
 (6) ヒメキマダラセセリ (*Ochlodes ochracea* BREMER)  
 (7) ホソバセセリ (*Lsoiteon lamprospilus* C. & R. FELPER)  
 (8) オオチャバネセセリ (*Polytremsis pellucida* MURRAY)  
 (9) チャバネセセリ (*Pelopidas mathias* FABRICIUS)  
 (10) イチモンジセセリ (*Parnara guttata* BREMER & GREY)

## (3) 結び

以上 9 科 87 種 (迷蝶含む) の記録で姫路市の蝶相がだいたいおわかり願えると思うが代表的な種類で説明した以外の蝶でも説明を加えねばならない種がいくらかあるので列記してみた。

○ミヤマカラサアゲハ：1962年9月1日筆者が姫路市内(高尾町)で1♂を得た。おそらく迷蝶として深山から飛んできたものであろう。林田町奥佐見・書写山などに分布。

○クロアゲハ：最普通種だが無尾型が姫路市の上砥堀で得られた。データは次の通り 2-VIII-1980 1♂城乾中学生小坂潤一君採集。

○ウラナミアカシジミ：増位山系で得られている。

○クロシジミ：増位・広嶺山系で得られている。

○ウラジロミドリシジミ：姫路市内(元町)で得られている。木村三郎氏私信及び最近採卵もされている。

○スミナガシ：姫路市伊伝居など学校の校舎などに飛びこんだりすることが多いという。

○ホソバセセリ：1970-VIII-20、砥堀で得られている他、8月頃書写山にて多産する。

1949年8月10日今本哲男(1950)氏はルーミスジミを姫路市の書写山に発見したと報じその個体も“多数生息する”といっている文献もあるが同地に採集に訪れる人も多いが、採集された話がないので今回のリストには省くことにした。

以上により県下に産する種類の65%となり市街地の多い割に蝶類が豊富であり、姫路市も北端などへ行けばまだかなりの自然が残されているという事が分かって頂けると思う。又コンクリートジャングルにならない

いよう願っている。

姫路市の植物相からみて大体の種類は得られているが可能性のある種をあげて本稿を終わりたい。

●ウスイロオナガシジミ

食草のミズナラ・ナラガシワの関係で林田町などで見つかるかもしれない。

●ウラミスジシジミ

クヌギ・コナラを食草とするのでこれも可能性が大である。

●エゾスジグロシロチョウ

スジグロシロチョウと混同されて分からないものと思う。姫路市北端書写山などでみつかるかもしれない。

## 2. 姫路市の蜻蛉相

採集記録等を列記し代表的な種類に関して説明を加えた。尚筆者自身が採集したものを中心とし不足など大前晋氏の夢前川下流の蜻蛉を資料提供して頂きました。御礼申し上げます。尚文献等も利用しておりますので本稿終了に列記致し参考文献諸氏に感謝致します。

### イトトンボ科 (Agrionidae)

#### 1. キイトトンボ (*Ceragrion melanurum* SELYS)

melan

採集例：飾磨区入船町 1♀ 13-VII-1972 相坂  
 " " 多数 20-VII-1972 "  
 広畑区才 1♀ 13-VI-1979 大前

#### 2. アジアイトトンボ (*Ischnura asiatica* BRAUER)

採集例：山田町牧野 1♂1♀ 15-VIII-1972 相坂  
 市内 1♂ 14-VI-1972 "

#### 3. アオモンイトトンボ (*Ischnura senegalensis* RAMBUR)

採集例：飾磨区入船町 多数 3-IX-1969 相坂  
 " " 多数 3-VII-1972 "

#### 4. クロイトトンボ (*Cercion calamorum* RIS)

採集例：広畑区才 1♀ 15-V-1979 大前  
 六角 2♂1♀ 29-VI-1979 "

#### 5. セスジイトトンボ (*Cercion hieroglyphicum* BRAVER)

採集例：広畑区才 1♂ 27-V-1979 大前  
 " 下野 1♀ 19-VI-1979 "

#### 6. オオイトトンボ (*Cercion sieboldii* SELYS)

採集例：広畑区才 1♀ 9-VII-1980 大前

### モノサシトンボ科 (Platycnemididae)

#### 1. グンバイトンボ (*Platycnemis foliacea sasakii* ASAHINA)

採集例：六角 2♂ 24-VI-1979 大前  
 " 1♂1♀ 29-VI-1979 "

本種は湧水で、水温の低い所にのみ見られ、極めて限られた所しか産しない。関東には多いが関西には少い。しかし案外播磨地区には多産する。

#### 2. モノサシトンド (*Copera annulata* SELYS)

採集例：書写山 1♂ 15-VIII-1972 相坂

### アオイトトンボ科 (Lestidae)

#### 1. オツネイトンボ (*Sympetma paedisca* BRAUER)

採集例：広畑区下野 1♀ 28-III-1979 大前由

#### 2. ホソオツネイトンボ (*Ceylonolestes gracilis peregrinus* RIS)

採集例：広畑区才 1♀ 15-IV-1979 松本

#### 3. アオイトトンボ (*Lestes sponsa* HANSEMANN)

採集例：山田町牧野 2♂ 16-IX-1973 相坂  
 採集 広畑区西蒲田 2♂2♀ 24-VII-1980 大前

#### 4. オオアオイトトンボ (*Lestes temporalis* SELYS)

採集例：山田町牧野 7♂ 12-XI-1972 相坂  
 広畑区才 3♂1♀ 30-IX-1979 大前

#### 5. コバネアオイトトンボ (*Lestes japonicus* SELYS)

採集例：山田町牧野 1♀ 15-VIII-1972 相坂

採集例：広畑区下野 1♀ 16-IX-1979 大前由

南山田藤の木 1♂ - V - 1980 相坂

## カワトンボ科 (Calopterygidae)

1. ハグロトンボ (*Calopteryx atrata* SELYS)採集例：広畑区西夢前台 1♂ 23-VI-1979 大前  
青山 相坂2. ミヤマカワトンボ (*Calopteryx cornelia* SELYS)

採集例：書写山 1♀ 19-V-1967 相坂

3. ニシカワトンボ (*Mnais pruinosa pruinosa*)

採集例：書写山 4♂2♀ 19-V-1967 相坂

## ムカシヤンマ科 (Petaluridae)

1. ムカシヤンマ (*Tanypteryx pryeri* SELYS)採集例：六角→書写山3♂1♀ 19-V-1967 相坂  
書写山上 1♂ - V - 1973 //

原始的で極めて特異な種である。幼虫は崖や傾斜地で蘚苔類やスゲが生育し、水のにじみ出るような湿った土に掘坑して住んでおり、その行動や生態は特異である。成虫はゆるやかに飛び、動作は鈍く、よく日当りのよい地上や木に止まる。書写山上で得た時は筆者の身体に飛んできて服に静止した。わが国特産種で姫路市では書写山系しか得られていない様である。

## サナエトンボ科 (Gomphidae)

1. ヤマサナエ (*Gomphus melaenops* SELYS)採集例：上砥堀 4♂1♀ 29-V-1960 東  
六角 1♂ 6-VII-1979 大前2. キイロサナエ (*Gomphus pryeri* SELYS)採集例：上砥堀 5♂2♀ 22-VI-1963 東  
" 1♂ 14-V-1967 //3. フタスジサナエ (*Trigomphus interruptus* SELYS)採集例：横関 1♀ 26-IV-1959 東  
" 2♂1♀ 18-IV-1965 //4. タベサナエ (*Trigomphus citimus tabei* ASAHINA)

採集例：横関 1♂ 3-V-1959 東

5. オジロサナエ (*Stylogomphus suzukii* OGUMA)採集例：六角 1♂ 6-VII-1979 大前  
林田町奥佐見 相坂6. ダビドサナエ (*Davidius nanus* SELYS)

採集例：上砥堀 2♂1♀ 29-V-1960 東

7. アオサナエ (*Nihonogomphus viridis* OGUMA)

採集例：上砥堀 1♀ 29-V-1960 東

8. オナガサナエ (*Onychogomphus viridicostus* OGUMA)採集例：書写山 1♂1♀ 1-VIII-1971 東  
林田町奥佐見 1♂ 12-VIII-1974 相坂9. コオニヤンマ (*Sieboldius albardae* SELYS)採集例：横関 1♂ 5-VII-1959 東  
林田町奥佐見 1♂ 11-VIII-1974 相坂  
六角 1♀ 6-VII-1979 大前

## オニヤンマ科 (Cordulegasteridae)

1. オニヤンマ (*Anotogaster sieboldii* SELYS)採集例：上砥堀 2♂ 18-VIII-1972 相坂  
山田町牧野 1♂ 31-VIII-1972 //  
網干区浜田 1♂ 22-VIII-1972 //  
広峰山 1♀ 30-VIII-1975 //  
書写山 1♀ 31-VIII-1975 //

## ヤンマ科 (Aeschnidae)

1. サラサヤンマ (*Jagoria pryeri* MARTIN)採集例：市内(南畝町) 1♀ 23-V-1969 相坂  
" " 1♀ 26-V-1969 //

採集例：市内(南畝町) 1♀ 3-VI-1973 相坂  
 広畑区才 1♂ 9-VI-1979 大前

小型のヤンマで、新潟・石川両県では多産することが知られているが、その他の地区では稀にしか採集されず、しかも個体数は次第に少くなりつつある。

市内で得られたが、最近では不可能である。

## 2. ミルンヤンマ (*Planaeschna milnei* SELYS)

採集例：書写山 1♀ 15-IX-1974 相坂  
 広峰山 3♂ 30-VIII-1975 "  
 書写山 1♀ 31-VIII-1975 "

## 3. コシボソヤンマ (*Boyeria maclachlani* SELYS)

採集例：別所町北宿 1♂ 26-VII-1959 東  
 書写山 2♀ 31-VIII-1975 相坂

## 4. アオヤンマ (*Aeschnophlebia longistigma* SELYS)

採集例：広畑区 1♀ 10-VI-1975 相坂  
 飾磨区 "

名前のごとく全身があざやかな緑色、美しい中型のヤンマで、昔は多くいたが近年都市の開発により生息地の埋め立てにより絶滅にひんしているところが多く生息地より遠くはなれることは少ないので注意しなければならない。

## 5. カトリヤンマ (*Gynacantha japonica* BARTENEF)

採集例：市内(南畝町) 1♂ 28-VIII-1963 相坂  
 " " 1♀ 7-VIII-1965 "  
 林田町奥佐見 1♂ 16-VIII-1975 "

## 6. ヤブヤンマ (*Polycanthagyna melanictera* SELYS)

採集例：飾磨区入船町 1♂ 12-VII-1974 相坂  
 林田町奥佐見 1♂ 2♀ 16-VIII-1974 "  
 勝原区丁 1♀ 9-IX-1975 "

♂は黒色地に青緑斑があり美しく、♀は全体に黄色部が多く、一見別種の感じがする。低山や丘陵のヤブの中にある小池や溜り水で育つ。林田町では捨てたタルの溜り水にて育っていた。

## 7. ギンヤンマ (*Anax parthenope julius* BRAUER)

採集例：市内(南畝町) 1♀ 14-VI-1963 相坂  
 林田町奥佐見 2♂ 11-VIII-1974 "  
 勝原区丁池 多数 9-IX-1975 "

## 8. クロスジギンヤンマ (*Anax nigrofasciatus nigrofasciatus* OGUMA)

採集例：市内(姫路城堀) 1♀ 12-V-1967 相坂  
 広畑区才 1♂ 22-V-1979-門野

## 9. オオルリボシヤンマ (*Aeschna nigroflava* MARTIN)

採集例：書写山 1♀ 31-VIII-1974 相坂  
 " 1♂ 2♀ 15-IX-1974 "  
 増位山 1♂ 25-VIII-1971 東

日本列島特産種であり、西日本では稀ではあるが姫路地方の比較的深い山地では必ず見られる。大形で美しいヤンマでルリボシヤンマの高山トンボによく似ている。

## 10. マルタンヤンマ (*Anaciaeschna martini* SELYS)

採集例：大津区天満 1♀ 三木  
 広畑区才 1♀ 28-VIII-1980 大前  
 網干区興浜 1♂ -IX-1980 岩村

南方種で、珍しいヤンマの1種ではあるが、近年播磨地方各地より発見され、姫路地方でも時々採集された。

## エゾトンボ科

### 1. ハネヒロエゾトンボ (*Somatochlora clavata* OGUMA)

採集例：別所町北宿 1♂ 1♀ 29-VI-1959 東  
 広峰山 1♂ 1♀ 25-VIII-1971 "

### 2. オオエゾトンボ (*Somatochlora uiridiaenea atrovirens* SELYS)

採集例：広峰山 1♀ 25-VIII-1971 東  
 広畑区才 1♂ 21-VII-1980 大前

前種ハネヒロエゾトンボ及びオオエゾトンボは稀種に属し、同科のタカネトンボと比べると極めて個体数は少ない。

3. タカネトンボ (*Somatochlora uchidai* FOERSTER) 広畑区才 1♀ 20-VII-1979 大前
- 採集例：書写山 1♂ 14-IX-1969 相坂  
 " 3♂ 17-IX-1974 "  
 広峰山 1♀ "

金緑色をした美しい種で、山地の小池に9月頃特に多く♂が縄張り占有飛翔をし小池の内側を岸に接して飛ぶので採集は容易。

4. トラフトンボ (*Epithea marginata* SELYS)

- 採集例：南山田藤の木 2♂1♀ 11-V-1980 生徒  
 広畑区才 1♂ 10-V-1980 大前

ヤマトンボ科 (*Macromiidae*)

1. コヤマトンボ (*Macromia amphigena amphigena* SELYS)

- 採集例：上砥堀 1♂ 16-VI-1972 相坂  
 林田町奥佐見 1♂ 16-VIII-1974 "  
 広峰山 1♂ 30-VIII-1975 "

2. オオヤマトンボ (*Epopthalmia elegans* BRAUER)

- 採集例：林田町伊勢 1♂1♀ 14-VII-1973 相坂

トンボ科 (*Libellulidae*)

1. ハラヒロトンボ (*Lyriothemis pachygastra* SELYS)

- 採集例：広畑区才 1♂ 19-VI-1977 大野  
 " 下河原 1♀ 4-VII-1979 松尾

2. シオカラトンボ (*Orthetrum alhistyrum speciosum* UHLER)

- 採集例：飾磨区羽化 2♂ 4-VIII-1967 相坂  
 " 入船町 1♀ 1-IX-1972 "

3. シオヤトンボ (*Orthetrum japonicum japonicum* UHLER)

- 採集例：書写山 1♀ 4-VI-1979 大野

4. オオシオカラトンボ (*Orthetrum triangulare melania* SELYS)

- 採集例：広畑区才 1♂ 9-VI-1979 大前

5. ベッコウトンボ (*Libellula angelina* SELYS)

記録：姫路市横関

6. ハッチョウトンボ (*Nannophya pygmaea* RAMBUR)

記録：林田町摺鉢谷

7. ショウジョウトンボ (*Crocothemis servilia* DRURY)

記録：飾磨区入船町 多数 3-VIII-1972 相坂

8. コフキトンボ (*Deielia phaon* SELYS)

- 採集例：広畑区北野町 1♀ 27-VI-1979 柳本  
 勝原区丁 1♂ 30-VII-1979 坂野

9. ミヤマアカネ (*Sympetrum pedemontanum elatum* SELYS)

- 採集例：書写山 1♂ 1-VIII-1971 松本  
 " 山腹 1♀ 11-VIII-1964 "

10. タイリクアカネ (*Sympetrum striolatum imitoides* BARTENEFF)

- 採集例：飾磨区入船町 1♂ 18-V-1967 相坂  
 " " 多数 16-XI-1972 "  
 大塩町 1♂1♀ 7-X-1970 東

瀬戸内海の高ぜいの塩水の入るような池や水溜りに産卵をする。播磨地方でも多く海岸沿いで見られるがこの飾磨区や大塩町付近のタイリクアカネは工場内の廃棄物の池やゴミ捨て場のたまり水等に産卵する。不思議なことに日本海沿岸ではほとんどこのアカトンボは見られない。

11. ナツアカネ (*Sympetrum darwinianum* SELYS)

- 採集例：山田町牧野 1♂ 7-IX-1964 相坂  
 広畑区才 1♂3♀ 5-XI-1978 大前

12. アキアカネ (*Sympetrum frequens* SELYS)

- 採集例：山田町牧野 1♂ 15-VIII-1972 相坂  
 飾磨区入船町 1♀ 29-X-1972 "

13. タイリクアキアカネ (*Sympetrum depressiusculum* SELYS)

採集例：飾磨区入船町 1♂ 28-X-1976 相坂

この種は日本海沿岸しか発見されなかったもので、筆者が偶然勤務地の工場裏側の広い埋立地で自然に出きた小さな水溜りのそばのがれき上、海岸から10mくらいのところのところに静止していたものを採集したもの。

瀬戸内海沿岸ではじめて見つかり、この発見により兵庫県産のトンボは91種となった。

14. マイコアカネ (*Sympetrum kunkkli* SELYS)採集例：飾磨区入船町 1♀ 4-VIII-1972 相坂  
山田町牧野 1♂1♀ 15-VIII-1972 //15. マユタテアカネ (*Sympetrum eroticum eroticum* SELYS)採集例：山田町牧野 1♀ 16-IX-1972 相坂  
飾磨区入船町1♂2♀ 4-VIII-1972 //16. リスアカネ (*Sympetrum risirisi* BARTENEF)採集例：山田町牧野 1♂1♀ 15-VIII-1972 相坂  
林田町奥佐見 2♂ 29-IX-1974 //17. ヒメアカネ (*Sympetrum parvulum* BARTENEF)採集例：山田町牧野 2♂ 15-VIII-1972 相坂  
" " 1♂ 1-X-1972 //18. ノシメトンボ (*Sympetrum infuscatum* SELYS)採集例：書写山 1♀ 1-VIII-1971 相坂  
山田町牧野 2♂ 16-IX-1973 //19. コノシメトンボ (*Sympetrum baccha matutinum* RIS)

採集例：谷内町見崎 5♂2♀ 12-X-1961 東

20. マグラナニワトンボ (*Sympetrum maculatum* OGUMA)採集例：山田町牧野 4♂4♀ 15-VIII-1972 相坂  
" " 1♀ 16-IX-1973 //

日本の関西地方を中心とした地域にしか知られてお

らず、発生地も局限されており林田町や余部区でも得られた記録が残っている。

21. ナニワトンボ (*Sympetrum gracile* OGUMA)採集例：豊富町太尾 1♂ 23-VIII-1965 相坂  
南山田藤の木 2♂ 9-IX-1979 大前22. キトンボ (*Sympetrum croceolum* SELYS)

採集例：広峰山 1♂ 30-VIII-1975 相坂

23. オオキトンボ (*Sympetrum uniforme* SELYS)

採集例：山田町牧野 1♀ 1-VII-1965 相坂

わずかこの一例しか筆者は知らない。文献等調べても全然採集例を見い出せない。もはや生息していないかもわからないが、姫路近辺の青野ヶ原では多産し又相生市付近にも見られる。

24. ネキトンボ (*Sympetrum speciosum speciosum* OGUMA)採集例：山田町牧野 1♂ 15-VIII-1972 相坂  
書写山 1♂ 17-IX-1974 "  
1♂ 24-VII-197525. ウスバキトンボ (*Pantala flavescens* FABRICIUS)採集例：山田町牧野 1♀ 12-VIII-1964 相坂  
書写山 1♀ 15-VIII-1972 //26. コシアキトンボ (*Pseudothemis zonata* BURMEISTER)採集例：本町(姫路城) 1♂ 28-V-1964 相坂  
市内 1♀ 12-V-1964 //27. チョウトンボ (*Rhythemis fuliginosa* SELYS)

採集例：岡町(景福寺山) 1♂ 13-VII-1967 相坂

以上10科70種の記録を得て姫路市の蜻蛉相の大体のようすが分かって頂けたと思う。しかしこれは採集例の一例であり文献等も利用したもので、より完全な蜻蛉相の解明は次回機会があれば発表したいと思う。

一応今回まとめた総数は70種であり県下に産する蜻蛉

の77%となり、いかに姫路市が蜻蛉相が豊富であるかが分かる。その要因として姫路市は瀬戸内海式気候で高温少雨であり、東播地区程多くはないが溜池等も多くみられ、河川もはじめに紹介した様多く、幼虫時代をヤゴとして育つのに最適であるためである。

終わりに姫路市に分布可能なオグマサナエ・ヨツボシトンボ・ハネビロトンボ・ベニイトトンボ等を列挙して本稿をおわりたい。

### まとめ

以上にて 1. 姫路市の蝶相、2. 姫路市の蜻蛉相としてファウナ解明へ少し前進した様に思うが、より完全な昆虫相解明へ今後も努力したい。

尚本稿を草するにあたり資料の提供や有益な御助言を賜った稲田和久・岩村巖・大前晋・尾崎勇・木村三郎・黒田収・高田忠彦・花岡正・広畑政己・丸尾準治・三木安貞の諸氏に深くお礼申し上げます。

### 参考文献 (蝶相関係)

- 林 久夫 (1957) 姫路市のシルビアシジミの記録  
MDK NEWS Vol.10(1)
- 中谷貴寿 (1960) 兵庫県におけるシルビアシジミの新産地 MDK NEWS Vol.13(2)
- 岩村 巖・中谷貴寿 (1961) 西播の蝶分布資料(1)、  
兵庫生物 Vol.4 No.2
- 山本広一・吉阪道雄 (1965) 兵庫県産蝶類目録、  
兵庫生物 Vol.5 No.1
- 山本広一 (1966) 県下のナガサキアゲハについて(1)  
兵庫生物 Vol.5 No.2
- 山本広一 (1971) 兵庫県の蝶相、月刊むし3  
姫路市立科学館 (1971)~(1979) 探究と工夫  
二谷正義 (1972) 姫路における昆虫の話・科学館だより  
創刊号
- 相坂耕作 (1973) 姫路の昆虫・科学館だより第2号  
姫路市立科学館 (1974~1980) 科学館だより
- 奥谷禎一 (1974) 兵庫県自然の現状II 兵庫県生活部  
自然課
- 川副昭人・若林守男 (1976) 原色日本蝶類図鑑  
播磨蝶友会 (1976~1977) ひろおびNo.1.2.3号
- 木村三郎 (1976) 増位山の生物(I) 増位山自然公園
- 井手敏晴 (1976) 兵庫県下におけるクロコノマチョウ  
の採集記録 MDK NEWS Vol.26(7)
- 井手敏晴 (1976) 姫路市内でミズイロオナガシジミの異  
常型を採集 MDK NEWS Vol.26(7)

- 木村三郎 (1978) 播磨の生き物 毎日新聞・姫路支局編  
高田忠彦・井手敏晴 (1978) 兵庫県産蝶類調査報告(1)  
シジミチョウ科(その1)
- 桑名 誠 (1979) 姫路市飾磨区の蝶相 てんとうむしNo.5
- 広畑政己 (1979) 兵庫県産ナガサキアゲハの分布につ  
いて てんとうむしNo.5
- 法西定雄 (1979) 姫路市北部のキマダラルリツバメ  
てんとうむしNo.5
- 広畑政己 (1979) 兵庫県のクロツバメシジミ ひろおび  
No.4
- 広畑政己 (1979) 12月に見かけた蝶数種について  
ひろおびNo.4
- 姫路市立少年自然の家(1979)自然を友とし自然に学ぶ  
自然観察指導資料
- 広畑政己 (1980) 兵庫県のナガサキアゲハ、ひろおびNo.5
- 苦木隆幸 (1980) 姫路市御立北山の蝶 ひろおびNo.5
- 相坂耕作 (1980) 姫昆サロンニュース 姫路昆虫同好  
会連絡ニュースNo.1~No.6

### 参考文献 (蜻蛉相関係)

- 石田昇三 (1969) 原色日本蜻蛉生態図鑑 (II)  
姫路市立科学館 (1971~1979) 探究と工夫  
二谷正義 (1972) 姫路における昆虫の話・科学館だよ  
り創刊号
- 相坂耕作 (1973) 姫路の昆虫・科学館だより第2号  
姫路市立科学館 (1974~1980) 科学館だより
- 奥谷禎一 (1974) 兵庫県自然の現状II・兵庫県生活部  
自然課
- 関西蜻蛉談話会 (1974) 近畿地方のトンボ、ムカシト  
ンボ科・ムカシヤンマ科・サナエトンボ科
- 関西蜻蛉談話会 (1975) 近畿地方のトンボ、オニヤン  
マ科・ヤンマ科・ヤマトンボ科・エゾトンボ科
- 関西蜻蛉談話会 (1976) 近畿地方のトンボ、トンボ科  
菅原昭夫・相坂耕作 (1976) 林田町に産するヤブヤン  
マの生活・てんとうむし(創刊号)
- 相坂耕作 (1976) タイリクアキアカネを瀬戸内側で発見  
TOMBO Vol.19 日本蜻蛉学会
- 相坂耕作 (1977) アカトンボ・風物誌(161)山陽ニュース  
関西蜻蛉談話会 (1977) 近畿地方のトンボ、トンボ科  
アオイトトンボ科・モノサシトンボ科・イトト  
ンボ科・カワトンボ科
- 相坂耕作 (1979) 揖尾地区の蜻蛉相、てんとうむしNo.5
- 大前 晋 (1979) 夢前川下流周辺の蜻蛉類、市立科学  
館資料
- 相坂耕作 (1980) 姫昆サロンニュース、姫路昆虫同好  
会連絡ニュース、No.3.4.

(S.05: KOUSAKU AISAKA 姫路市 )

## 西播の蝶分布資料 (8)

宍粟郡のメスアカミドリシジミ 岩村 巖

Some note on the Butterfly Fauna of South west Hyōgo-pref (8)

(The distribution of *Chrysozephyrus smaragdinus* in Shisō-gun)

西播における本種の確実な採集記録は、山本広一氏による1935年7月12日の飾磨郡夢前町雪彦山でのものが最初であろうと思われるが、その後1960年代に至るまで、長らく当地方における採集の報告はなされていない。宍粟郡内での本種の最初の記録は1964年6月7日に山崎町筏の上流、奥山国有林の林道ぞいの桜の老木の樹上で筆者が採集した4♂♂がおそらく最初ではないかと思われる。当地方における本種の分布のようすがかなり明確に判明したのは1970年代のそれ後半になってからであり、それまでは目撃記録すら皆無に等しいのが実情であった。

1974年～77年にかけて井手敏晴、高田忠彦の両氏により県下のシジミチョウの分布調査がなされ、その結果を兵庫県産蝶類調査報告(I)としてまとめておられるが、これによれば、波賀町赤西、一宮町福知、千種町木地山、山崎町上・下等において成虫又は卵の採集が記録されている。又一方、1975年以降、姫路昆虫同好会、播磨蝶友会等のメンバーによる組織的な調査が冬期の採卵を中心としてすすめられるようになり、次第に採集報告数も集約されつつあり、その結果、本種が、当地方の標高400m～800mあたりの広葉樹林帯の溪流ぞいにかかなり広範囲にわたって分布していることがかなり明らかになって来た。筆者も1977年以降、本種の西播における分布状態のより正確な解明をめざして、かなり積極的に採卵を中心として取り組んで来ており、その結果として現在までに新しい分布地もいくらかみつかったので、この機会に、これまでの既産地も含めて宍粟郡内の分布状態をまとめておきたいと思う。

宍粟郡4町の内では本種の産地が最も多いのは一宮町である。三方川上流東側の各溪流ぞいにはかなりの産地が知られている。佐々木薫氏は草木において11卵の採集に成功しておられるし(1979.12.1)、八木弘氏による黒原での5卵の記録もある。又福知、下千町等での採卵記録はかなりの数に達しており、その個体数は相当多いものと思われる。その他砥峰(大河内町側にも記録がある)、伊和、東河内、太谷、富士野において筆者がその分布を確認している。しかし、同じ三方川流域でも西側の渓谷には採集されたという報告が今の所なされていない。小原、溝谷、阿舍利等の調査の際

にも卵は発見されていない。波賀町においては戸倉、赤西、東山高原での分布が確認されており、尾崎勇氏によれば新戸倉にも産地があるとの事である。しかし、一宮町にくらべれば調査が十分におこなわれておらず、今後の調査にまつ所が大である。この事は千種町においても同様であり、今後の組織的な調査を期待したい。一方南の安富町においては広畑政己氏による大河弁獄からの記録が現在までの所唯一のものであり、(1977.3.27)、尾崎氏によれば1978年にも1卵採集されているとの報告がある。又、山崎町においては北部の黒尾山塊に本種の分布している事が確認されているが、これについては西播の蝶分布資料(7)(ひろおび、No.5)にくわしくのべておいたので参照されたい。

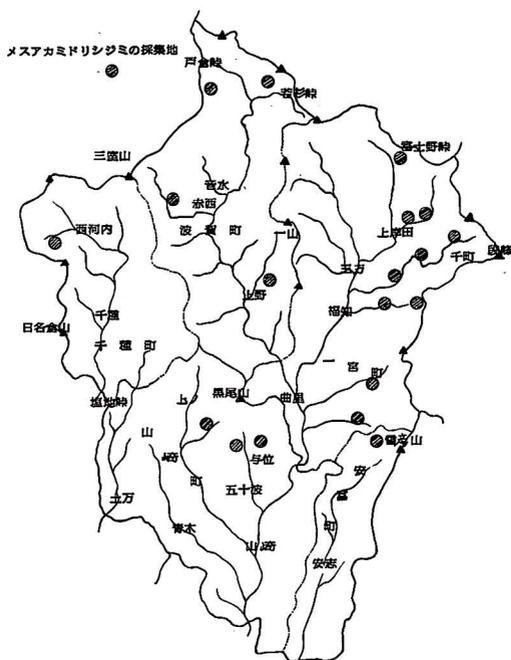
- 1964. 6. 7. 4♂♂ 山崎町筏 (岩村)
- 1975. 7. 19. 1♀ 一宮町砥峰(福知溪谷側)(〃)
- 1977. 3. 27. 1卵 安富町大河弁獄 (広畑)
- 1978. 12. 6. 32卵 山崎町筏 (岩村)
- 1978. 12. 24. 16卵 一宮町福知 (〃)
- 1979. 1. 14. 8卵 山崎町与位 (〃)
- 1979. 2. 12. 42卵 一宮町下千町 (〃)
- 1979. 2. 18. 11卵 一宮町黒原 (〃)
- 1979. 3. 18. 5卵 一宮町黒原 (八木)
- 1979. 12. 1. 11卵 一宮町草木 (佐々木)
- 1979. 12. 2. 3卵 一宮町東河内 (岩村)
- 1979. 12. 2. 1卵 一宮町伊和 (〃)
- 1979. 12. 2. 3卵 波賀町上野東山高原 (〃)
- 1980. 1. 5. 8卵 一宮町太谷 (〃)
- 1980. 1. 7. 21卵 山崎町河原山林道 (〃)

本種の卵は食樹の下枝で発見される場合が多く、分枝部や樹皮上に出来たくぼみ等にほとんど1卵ずつ、時には2～数卵まとめて産付されている。いずれもが日裏にあたる枝の下部であり、日のあたる上面に産みつけられている事はほとんどない。又、同じ下枝でも、溪流上に大きくはり出している南側に面しているものに最も多く発見される。さらに、その年に伸びた1年目のまだ木はだの淡い先端近くの樹上よりも、それよりもっと幹部よりの2年目あたりの樹上に産卵されている場合が多いが、時には頂芽の基部や、かなり太い

幹からも発見される事もある。福知溪谷において直径35mm以上のかかなり太い樹上より数卵採集した経験がある。産地に自生している、ヤマザクラ、ミヤマザクラ、キンキマメザクラ等数種のサクラ類のいずれもから卵が発見出来るが、ソメイヨシノに対する嗜好性はあまりないようで、ほとんど卵は発見されない。しかし飼育の際に与えればソメイヨシノでも十分に発育し、成虫の大きさにも変わりはない。尾崎氏によれば、栽培されているサクラの種類でも十分に飼育可能であるという。

自然界における孵化は3月下旬頃より4月上旬にかけておこらしく、筏での1979年における3月26日の調査では、すでに孵化してしまっている卵がかなりまじって発見されている。羽化は早いもので6月上旬、普通は中旬頃よりおこらしいが、羽化後♀はかなり長期間生きていようで、7月19日に比較的新鮮な♀を採集した記録もある。

以上、これまでに判明している宍粟郡のメスアカミドリシジミの分布について、いくらかの観察結果等もまじえて述べて来たのであるが、まだまだ調査不十分の所もかなりある。今後のより精力的な調査を期待したい。なお、筆をおくにあたり、資料の提供等色々とお世話いただいた相坂耕作、入江照夫、尾崎勇、川崎悟良、木村三郎、佐々木薫、若木隆幸、広畑政己、八木弘の諸氏に末筆ながら深くお礼申し上げる。



参 考 文 献

- (1) 広畑政己 (1979) : 安富町大河弁獄7月上旬の蝶 (ひろおび, No.4. : 18)
- (2) 八木 弘 (1980) : 蝶の飼育を試みて (ひろおび, No.5. : 19~20)
- (3) 佐々木薫 (1980) : 宍粟郡一宮町にヒサマツミドリシジミを求めて (ひろおび, No.5. : 23)
- (4) 尾崎 勇 (1980) : 兵庫県の蝶(1) 千種川水系の蝶相。(ひろおび, No.5. : 24~30)
- (5) 神戸新聞社学芸部 (1974) : 兵庫探検自然編 (神戸新聞社)
- (6) 山本広一 (1954) : 播磨雪彦山の蝶 (兵庫生物, Vol. 2.No.4~5 : 226~227)
- (7) 高田忠彦・井手敏晴 : 兵庫県産蝶類調査報告〔I〕シジミチョウ科 (その1)

(S. 02 : IWAO IWAMURA 姫路市 )

相生市のナガサキアゲハについて

米 村 和 繁

1980年5月24日に相生市陸にてナガサキアゲハの♀が1頭採集され、同時に蛹も2匹採集されていた。確認の為、採集者宅を訪問して尋ねてみると、付近のキンカンの木にて採集したものであった。この蛹は越冬したものであるが、おしくも寄生されていた。

5月中旬御津町室津にて♀を採集し、産卵させ飼育をしたものを川原町にて15頭放して結果をみた。7月中旬の天気の良い日には、ミカンの木にて産卵行動がみうけられた。私の家の前のミカンの木にて産卵している♀は、私が放した♀ではなかった。

市内のあちこちでナガサキアゲハの幼虫もとれている。鯛浜地区に於てもナガサキアゲハをよく見ると浜田氏から聞いている。9月3日に矢野町能下にてナガサキアゲハの♂がクサギの花にきているのを目撃、相生市の北のはしまで入りこんでいる。相生2丁目にて9月3日に完品の♂♀を1頭づつ目撃した。この場所は、7月中旬に産卵していた木でもある。相生市に於ては5月中旬、7月上旬、9月上旬と3回発生していることになる。来年も自然の状態を観察していきたい。

(S. 29 : KAZUSHIGE YONEMURA 相生市 )

# 姫路市児童生徒科学作品展に拾った蝶について

木村三郎

## I). はじめに

9月になると姫路市立科学館において、夏休み中に集めた昆虫等の作品展が開かれる。

私は科学館の運営委員の一員として、児童生徒たちに昆虫の採集、飼育等の事前・事後指導を担当しており、出品された昆虫の標本を調べたりまた直接採集者に会って、採集当時の模様やその地域の生息状況について話し合ってきた。

なにも普通種が多いが、ときには思いがけない、珍種に接することがありこの種の会の楽しみである。いままでに確認できた多くの資料の内から注目すべき蝶を報告し、その種の県下における採集例と一部解説を付記して報告します。

## II). クロアゲハ *Papilio protenor* CRAMER (無尾型)

写真・表紙(表面)・1(裏面)

1980年8月2日市立城乾中1年生、小坂潤一君が、姫路市砥堀付近の山中で昆虫採集中偶然ネットにした内の1頭である。当初、ナガサキアゲハの♂だろうと思っていたが展翅中に赤斑がないのに気付き、その夜小坂君のお父さんが私の家へ電話されてきて、クロアゲハの無尾型と判明した。

無尾型が兵庫県内で採集された例は珍しく、現在までに下記の5例が報告されている。

〈採集記録例〉

- |           |     |              |                       |
|-----------|-----|--------------|-----------------------|
| ① 六甲山麓    | ?   | VIII 1933年   | 加地早苗氏                 |
| ② 神戸市外本山村 | 1♂夏 | ? 1938年?     | 谷口和義氏                 |
| ③ 三原郡南淡町  | 1♂春 | 15 V 1967年   | 藤平 明氏                 |
| ④ 淡路島     | ?   | ? 1968年?     | "                     |
| ⑤ 神戸市北区   | 1♂夏 | 下旬VIII 1979年 | 毛利明子君<br>(山本広一氏私信)未発表 |

クロアゲハは岡鑑等によると日本、朝鮮半島産のみ尾状突起があり(有尾型)その他の地域(西部支那系)に分布するものは尾状突起がない(無尾型)。

世界的に見ると無尾型の方が多く有尾型は少ない。

本州から九州にかけてのものは尾状突起が長く、南西諸島へと南下するほど短くなる傾向があり、クライン現象を呈している。

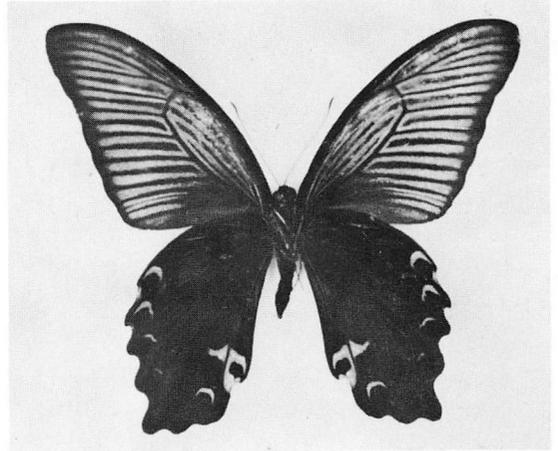


写真1:

〈採集データ〉 姫路市砥堀、2 VIII 1980 小坂潤一

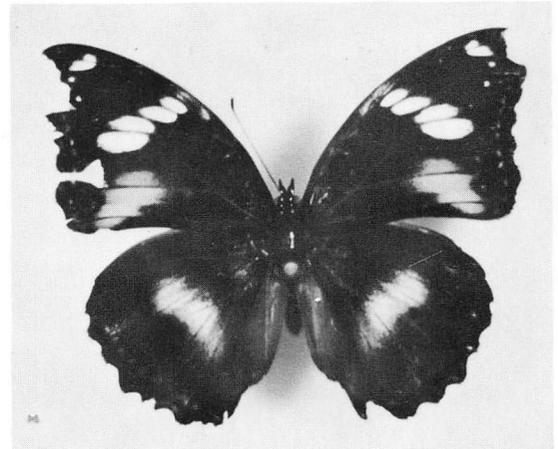


写真2:

〈採集データ〉 姫路市豊富町 24 VIII 1978 山本邦明

八重山諸島では有尾、無尾の両方の遺伝形成が混じりあって、尾状突起の長さにはいろいろな変化がみられる。有尾の遺伝子が優性で無尾の遺伝子が劣性であるといわれている。

クロアゲハの無尾型が少ないのは無尾の遺伝子そのものが少ないこともあるが劣性であるため形質として現われにくいことも少ない理由の1つであると報告さ

れている。

播磨地方ではおもに、ウンシュウミカン、ダイダイ、等栽培種、カラタチ・サンショウ・カラスザンショウ・フザンショウ・キハダ・コクサギなどを食草としており、年3回の発生で5月の中旬頃から10月の中旬頃まで見うけられる。

### III). リュウキュウムラサキ *Hypolimnas bolina* LINNAEUS 写真2. (パラオ型♀)

すこし前の記録であるが1978年8月24日当時市立豊富中2年生の山本邦明君が姫路市豊富町神谷の自宅近くの畑のなかで飛んでいた1頭♀を採集したところ、本種であることがわかった。

採集された♀蝶は台風によってパラオ諸島から、はこばれたものと思われ1部かけているがひかくてき新鮮な個体であった。

兵庫県内で採集された例は珍しく♀は2頭目である。なお現在までに下記のとおり5例が報告されている。

〈採集記録例〉

- |          |          |         |       |       |
|----------|----------|---------|-------|-------|
| ① 西宮市内   | 1♀(パラオ型) | 2 X     | 1957年 | 田中藩氏  |
| ② 洲本市宇山  | 1♂       | 20 VIII | 1959年 | 梅元晃義氏 |
| ③ 宝塚市武田尾 | 1♂       | 12 IV   | 1963年 | 岡村八郎氏 |
| ④ 相生市    | 1♂       | 3 XI    | 1967年 | 松尾〇〇君 |
| ⑤ 三原郡南淡町 | 1♂       | 30 VIII | 1968年 | 藤平 明氏 |

### IV). おわりに

以上報告するにあたって資料の提供や有益な助言をいただいた、相坂耕作・家永善文・岩村巖・尾崎勇・広畑政己・山本広一の各氏をはじめご協力をいただいた小坂潤一君・山本邦明君・前科学館館長丸尾準治先生・科学館館長小林茂一先生と事務の松本氏に厚くお礼を申し上げます。

### 参 考 文 献

- 谷口和義 (1938) 神戸産蝶類雑記(1) 昆虫界, 6(55): 761-762
- 加地早苗 (1940) 最近の六甲連山の蝶類目録 昆虫界, 8(55): 442-452
- 山本広一 (1968) 兵庫県下に注目すべき種類の蝶(1) MDK NEWS. 20(3): 15-18
- 藤平 明 (1968) 淡路島でクロアゲハ無尾型を採る蝶と蛾, 19(3-4): 114
- 坂口 操 (1963) 洲本市でリュウキュウムラサキ *PARNASSIUS* (10): 4
- 登日邦明 (1974) 淡路島の蝶相(1), 佳香蝶No.26
- 米村和繁 (1979) 相生市の迷蝶 てんとうむしNo.5: 14
- 川副昭人・若林守男: 原色日本蝶類図鑑 (保育社)
- 白水 隆 原色昆虫大図鑑1 (北隆館)
- 藤岡知夫 日本の蝶 (主婦と生活社)
- 白水隆・原 章: 原色日本蝶類大図鑑1 (保育社)

藤岡知夫 : 日本産蝶類大図鑑 (講談社)

(S. 03: SABUROU KIMURA 飾磨郡夢前町 )

### アカジマトラカミキリ (*Anaglyptus bellus* MATSUMURA et MATSUSHIMA) 多数採集す

黒 田 収

ながらく同好者の憧れの的であった晩夏のカミキリ、アカジマトラカミキリを昭和55年10月5日に氷の山横行登山道添のケヤキの老木の比較的新しい伐採木上で多数採集した。

兵庫県内では、ごく最近まで記録がなかったと思われる。筆者は5♂25♀(その内交尾中が3ペア)計30exs採集した。

当日天候は良く、晴で気温も平年並以上で時間はPM 2:00~PM 3:30であった。

尚、同地にてヤノトラカミキリ (*Xylotrechus yanoi* GRESSITT RD) も同年9月23日に相坂氏が死体で1ex。筆者も9月28日にケヤキ伐木上に飛来した1exを採集しているので合わせて報告する。

(S. 14: OSAMU KURODA 姫路市 )

### 神崎町でメスアカミドリシジミ採卵

石 井 為 久

本種は県下北西部の中国山地を中心に、標高400m~900mの山地に広く分布する。

市川支流の越知川上流は標高及び地形上、本種の棲息が可能と思われるので、採卵を行ったところ、本種の卵をヤマザクラより13卵発見することができた。

現在まで県下で市川以東は未記録であると思われるので発表した。

採卵場所…神崎町越知川上流、標高500m付近

採卵月日…1979年3月19日

飼育結果…3月26日~27日にかけて13頭すべて孵化した。そして、5月10日~5月15日にかけて6♂5♀が羽化した。

(S. 15: TAMEHISA ISHII 兵庫県神崎郡福崎町 )

## 三濃山へクロヒカゲモドキ をたずねて 唐土洋一

三濃山は相生市の北部、上郡町および新宮町との境に位置する海拔509mの山である。

1980年8月1日、4才になる息子と伴に蝶採集に出かけた。この時期における三濃山への採集行は10数年振りの事である。そもそも、何故、三濃山へ出かけたかと申しますと、K氏が三濃山へ足を運ぶのだが、クロヒカゲモドキのみが目撃することも出来ないという事を耳にしていたからに他ならない。ほんとうに彼女たちの姿を見る事が出来なくなってしまったのだろうか。さて、当日はあいにくのくもり空で、時々太陽が顔を出すといった天気模様であったが、幸いにも、クロヒカゲモドキ1♂1♀を採集することができ、10数年たった今日も、なお彼女たちが健在であった事を報告しておく。かつ、三濃山では初記録と思われるキマダラモドキ1♂を山頂にて採集した事も合せて報告する。

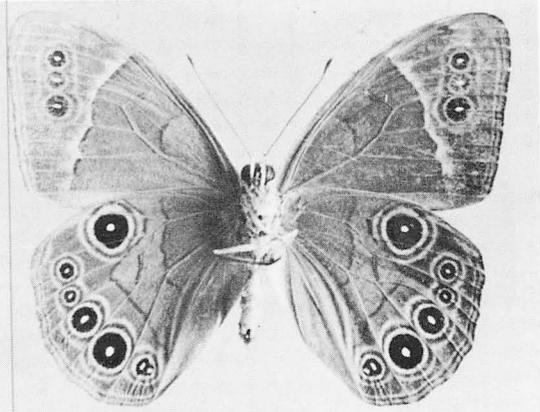


写真1：三濃山産クロヒカゲモドキの雄裏面

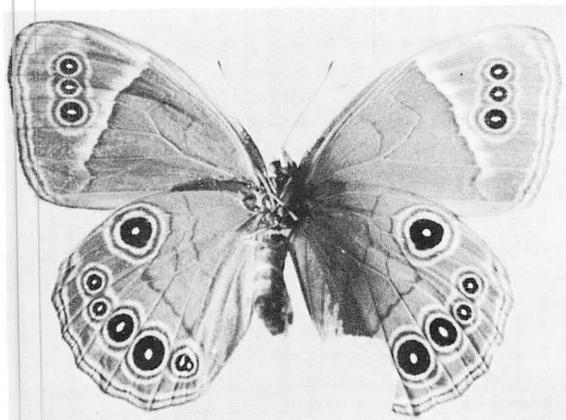


写真2：三濃山産クロヒカゲモドキ雌裏面

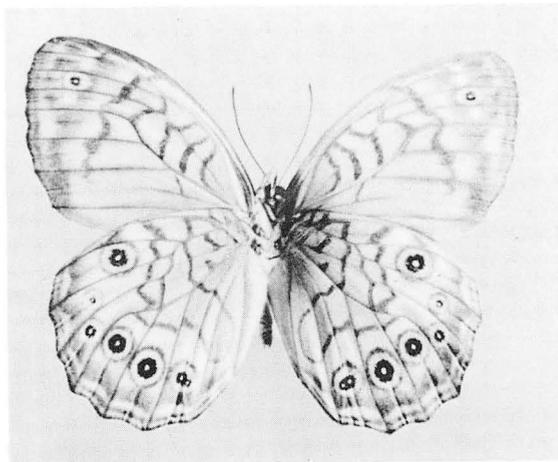


写真3：三濃山産キマダラモドキの雄裏面

尚、当日の採集行での採集及び目撃した種は次の通りである。

1. アゲハチョウ科  
アオスジアゲハ、アゲハ、キアゲハ、クロアゲハ、モンキアゲハ、オナガアゲハ、カラスアゲハ、ミヤマカラスアゲハ
2. シロチョウ科  
キチョウ、モンシロチョウ
3. シジミチョウ科  
ムラサキシジミ、ベニシジミ、ルリシジミ、ヤマトシジミ、ツバメシジミ
4. ウラギンシジミ科  
ウラギンシジミ
5. テングチョウ科  
テングチョウ
6. タテハチョウ科  
ミドリヒョウモン、ウラギンシジヒョウモン、イチモンジチョウ、コムシジ、サカハチチョウ、ルリタテハ、ヒメアカタテハ
7. ジャノメチョウ科  
ヒメウラナミジャノメ、キマダラモドキ、クロヒカゲ、クロヒカゲモドキ、ヒメジャノメ
8. セセリチョウ科  
ダイミョウセセリ、アオバセセリ、イチモンジセセリ、ホソバセセリ

以上8科32種を確認した。

### 〈参考文献〉

岩村 巖：(1968) 西播の蝶分布資料(5) 兵庫生物  
Vol. 5. No.5. p. 386~397

(S. 18: YŌICHI MOROKOSHI 相生市 )

# 福崎町の蝶

石井為久

福崎町は姫路市の北方約15kmに位置する総面積46.23 km<sup>2</sup>、人口約18,000人の小さな町である。

町のほぼ中央を北から南へ市川が流れ、流域一帯が水田地帯となっているが、最近では農業の他に工業、商業などにも力をそそぎ、調和のとれた発展を目ざしている。しかしながら自然と調和した発展はないようで、町の発展に伴って自然も次第に失われている。

20数年前の好採集地の1つであった福崎中学校付近の雑木林は、今はもう見る影もない。その中にあって西の七種山、東の日光寺山は自然が残され、今もなお多くの蝶を見ることができる。

筆者はこれらの山を中心に、福崎町全域の調査を行い1956年から1979年までの23年間に7科69種の蝶を確認した。

今後発見される可能性のあると思われる種についても、ここ2～3年特に気を付けて調べて来たが、期待に反して発見ができなかった。しかし、このところ分布も北へ広げているナガサキアゲハについては、本町でも採集される可能性は大きい。以下筆者が確認した種は次の通りである。尚エゾスジグロチョウの同定にあたっては広畑氏の協力をいただいた。

## アゲハチョウ科 (9種)

アゲハ、キアゲハ、アオスジアゲハ、ジャコウアゲハ、モンキアゲハ、クロアゲハ、オナガアゲハ、カラスアゲハ、ミヤマカラスアゲハ

## シロチョウ科 (8種)

モンキチョウ、キチョウ、ツマグロキチョウ、スジグロシロチョウ、エゾスジグロシロチョウ、スジボソヤマキチョウ、モンシロチョウ、ツマキチョウ

## シミチョウ科 (16種)

ムラサキシジミ、ウラゴマダラシジミ、ウラキンシジミ、アカシジミ、ミズイロオナガシジミ、ミドリシジミ、オオミドリシジミ、トラフシジミ、コツバメ、ベニシジミ、クロシジミ、ルリシジミ、ウラナミシジミ、ヤマトシジミ、ツバメシジミ、ウラギンシジミ

## テングチョウ科 (1種)

テングチョウ

## タテハチョウ科 (18種)

ウラギンスジヒョウモン、メスグロヒョウモン、クモガタヒョウモン、ミドリヒョウモン、ツマグロヒョウモン、アサマイチモンジ、イチモンジチョウ、コムシジ、ホシミスジ、サカハチチョウ、キタテハ、ヒオドシチョウ、ルリタテハ、ヒメアカタテハ、アカタテハ、スミナガシ、コムラサキ、ゴマダラチョウ

## ジャノメチョウ科 (8種)

ヒメウラナミジャノメ、ジャノメチョウ、ヒカゲチョウ、クロヒカゲ、サトキマダラヒカゲ、ヒメジャノメ、コジャノメ、クロコノマチョウ、

## セセリチョウ科 (9種)

ミヤマセセリ、グイミョウセセリ、コチャバネセセリ、ヒメキマダラセセリ、キマダラセセリ、ホソバセセリ、オオチャバネセセリ、チャバネセセリ、イチモンジセセリ、

クロコノマチョウ、スジボソヤマキチョウは1956年の記録で、最近では発見されていない。

(S. 15 : TAMEHISA ISHII 神崎郡福崎町 )

## 鷹の巣高原でオオヒカゲを採集する

花岡 正

宍粟郡千種町鷹の巣高原にて計4頭のオオヒカゲを採集した。当地はあちらこちらに湿地があり、ハッチョウトンボの群生地もある。時期的なものか、ウスイロヒョウモンモドキ、ヒョウモンモドキは採集できなかった。

### 〈採集記録〉

千種町鷹の巣高原	2♂	6-VII-1980	花岡 正
〃	1♂	6-VII-1980	唐土洋一
〃	1♂	12-VII-1980	花岡 正

(S. 19 : TADASHI HANAOKA 姫路市 )

# 西脇市の蝶

吉 田 豊

西脇市は加古川と杉原川の2つの川の合流地点にひらけたまちで、古くから播州織物工業の中心地として発展してきた。地理的には東経135度北緯35度の交差点にあり、日本の「へソ」と言われている。

標高は約60メートルで、かりに海面が200メートル上った場合、瀬戸内海と日本海は加古川水系と由良川水系によってつながり、この西脇市も海面下になるという全国でも最も低い地域でもある。

1000メートル前後の高さを保ってきた中国山地は、しだいに高さを減じ、500メートルから700メートルの丘陵性の山々となり、この地域でとぎれる。

この地域を東限西限とする植物も多いようで、蝶ではウスイロヒョウモンモドキがこの水系から東に分布しないことなど、県下の動植物相を語る上で見のがせない重要な地域でもある。

西脇市周辺の丘陵のアカマツ林にはヒメカンアオイが見られ、そのほぼ全域にはギフチョウが発生し、県下でも屈指の産地である。

筆者は、竹内俊行、村上英樹、徳岡正己、松尾隆の諸氏の協力を得て、1979年までの10数年間西脇市全域の調査を行い、73種の蝶の生息を確認した。この他にナガサキアゲハ、インガケチョウ、クロコノマチョウなどの記録があるが、定着しているかどうか判らないので数の中に入れていない。また、1971年5月11日に市内出合にてウスバシロチョウが採集されているが、生息しているとは考えられないので除外している。これまでに確認された種は次の通りである。

1. アゲハチョウ科 (10種)  
ギフチョウ、ジャコウアゲハ、アオスジアゲハ、キアゲハ、アゲハ、モンキアゲハ、クロアゲハ、オナガアゲハ、カラスアゲハ、ミヤマカラスアゲハ
2. シロチョウ科 (7種)  
モンキチョウ、ツマグロキチョウ、キチョウ、スジグロシロチョウ、エゾスジグロシロチョウ、モンシロチョウ、ツマキチョウ、
3. シジミチョウ科 (19種)  
ムラサキシジミ、ウラゴマダラシジミ、ウラキンシジミ、ウラナミアカシジミ、ミズイロオナガシ

ジミ、ミドリシジミ、オオミドリシジミ、トラフシジミ、キマダラリリツバメ、コツバメ、ベニシジミ、ゴイシシジミ、ウラナミシジミ、ヤマトシジミ、シルビアシジミ、ルリシジミ、ツバメシジミ、クロシジミ、ウラギンシジミ

4. タテハチョウ科 (19種)  
アカタテハ、キタテハ、ルリタテハ、ヒオドシチョウ、コムラサキ、スミナガシ、ヒメアカタテハ、ウラギンスジヒョウモン、オオウラギンスジヒョウモン、メスグロヒョウモン、クモガタヒョウモン、ミドリヒョウモン、ツマグロヒョウモン、イチモンジチョウ、アサマイチモンジ、コムスジ、ホシミスジ、ゴマダラチョウ、サカハチチョウ、
5. ジャノメチョウ科 (9種)  
ヒメウラナミジャノメ、ウラナミジャノメ、ジャノメチョウ、クロヒカゲ、ヒカゲチョウ、キマダラヒカゲ、ヒメジャノメ、ヒメヒカゲ、コジャノメ
6. セセリチョウ科 (7種)  
ミヤマセセリ、ダイミョウセセリ、コチャバネセセリ、キマダラセセリ、ホソバセセリ、イチモンジセセリ、アオバセセリ
7. マダラチョウ科 (1種)  
アサギマダラ
8. テングチョウ科 (1種)  
テングチョウ

## 〈参考文献〉

- 広畑政己 (1980) エゾスジグロチョウの採集記録数例  
ひろおび、No.5 p.22  
神戸新聞社学芸部 (1974) 兵庫探検自然編  
神戸新聞社 兵庫  
事典兵庫編集委員会 (1980) 事典ひょうご  
神戸新聞出版センター、兵庫

(S. 34 : YUTAKA YOSHIDA 西脇市 )

# 姫路市産アオスジアゲハ異常型の調査

相坂耕作

筆者は1979年及び1980年にかけて妻の協力を得、多数のアオスジアゲハを兵庫県姫路市網干区で調査した。

トベラの白い花に吸蜜にくる際採集観察をしたところ次の多くの異常型が得られたので発表しておく。尚同地で採集されたアオスジアゲハ・ナガサキアゲハを寄贈賜った菅原昭夫氏、この発表に際し御支援や御助言をいただいた広畑政己氏そして妻純子に深謝する。

## 写真1

この異常型はいわゆるエサキ型 (f. esakii) で前翅中室内に過剰紋が現れるタイプでこの個体は現れ方が小さい。尚裏面も同様に出ている。

Data 19-V-1980 1♂ 姫路市網干区新在家 相坂純子

## 写真2

これも写真1同様のエサキ型 (f. esakii) で前翅中室内に過剰紋が大きく現れエサキ型の特徴をよく現わしているタイプで裏面も同様よく現れている。

Data 19-V-1980 1♂ 姫路市網干区新在家 相坂純子

尚他にも表面には現れず裏面のみ現れたエサキ型も得られた。

## 写真3

この異常型はいわゆるハンキユウ型 (f. hankyuence) で前翅表および裏面第8室に過剰紋が現れ2個の斑紋となるタイプであり他にも1頭同様の型が得られた。又右前翅のみ同様の型で左前翅は全然異常がないタイプが得られた。

Data 19-V-1980 1♂ 姫路市網干区新在家 相坂純子

## 写真4

この異常型はいわゆるエサキ型 (f. esakii) とハンキユウ型 (f. hankyuence) とがミックスしたような個体である。説明を加えると左翅はハンキユウ型で過剰紋が現れ小さいがエサキ型もある。右翅はエサキ型のみ現れている。尚裏面も同様に現れている2重の異常型である。

Data 19-V-1980 1♂ 姫路市網干区新在家 相坂純子

## 写真5

この異常型は前翅端の斑紋が横にのびた個体である。裏面も同様横にのびている。わずかこの1頭のみでこのタイプの異常型は少ない様である。

Data 19-V-1980 1♂ 姫路市網干区新在家 相坂純子

## 写真6

この個体は異常に小型であり普通の2回り位小さく、晩秋に寒さのため十分に成長が出来ずに蛹化し越冬したものであろう。

Data 24-V-1979 1♂ 姫路市網干区新在家 相坂純子

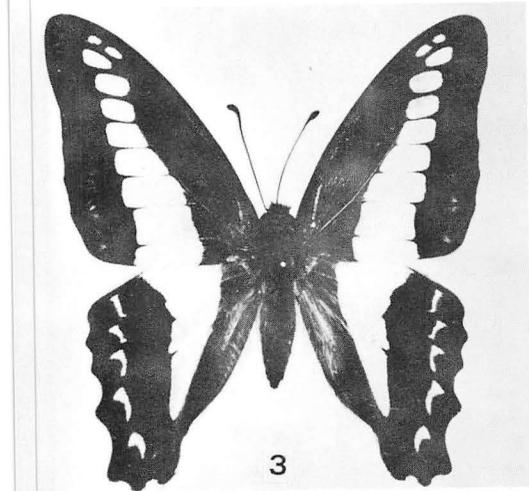
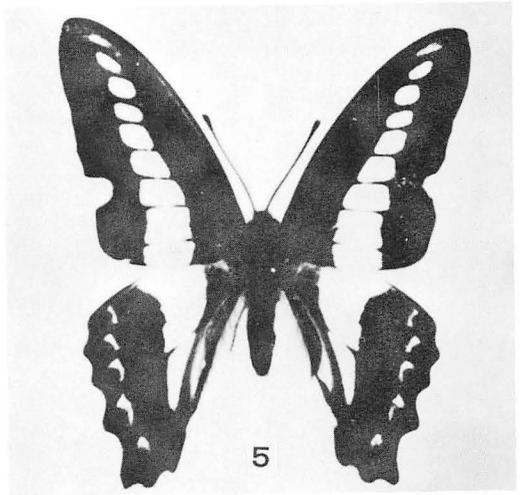
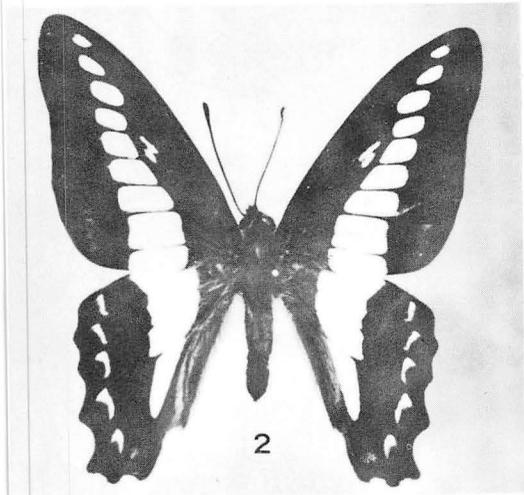
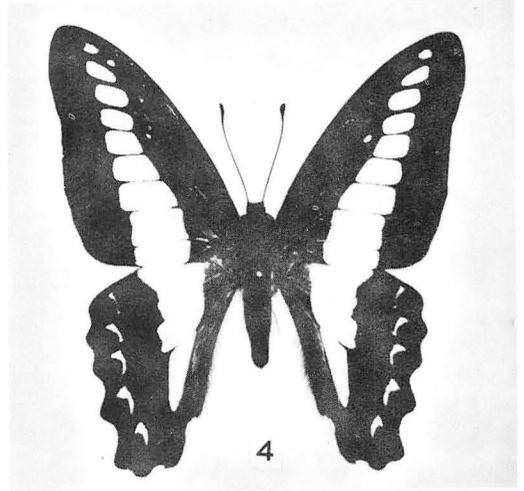
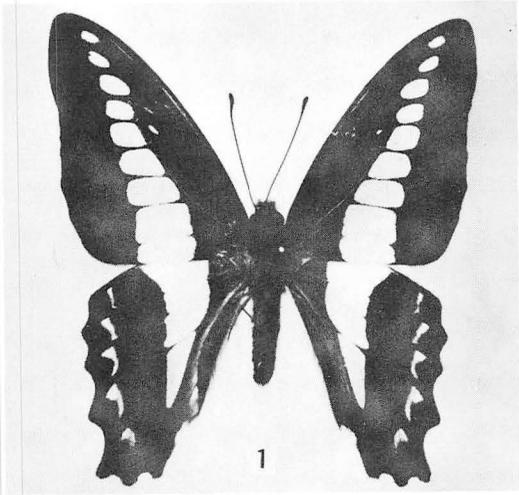
尚他にも同様小型の個体が -V-1980 1♂ が同地で1個体得られた。

今回の調査により約100頭を得たが、その中で異常型を現わした個体は12頭 (軽い異常型も含む) であり12%前後の確率を表わした。

同地において多くの型の異常型が得られたが斑紋異常ばかりであり、色彩異常は全然なかった。またアオスジアゲハの異常型にはタンノ型スズキ型スルスミ型などもあり来年以後も同地で調査を続け姫路市網干区産のアオスジアゲハの異常型解明へより前進して行きたいと思う。尚採集地である姫路市網干区は揖保郡御津町と隣接しており、1978年5月に御津町室津で入江照夫氏 (ひろおびNo.4, 1979) がエサキ型を得られていることを付記しておきます。

## 【参考文献】

- 浜 祥明 (1978) Graphium 属の異常型 MDK NEWS Vol. 28, No.78Dec.  
 日浦 勇 (1969) 大阪市立科学博物館収蔵資料目録 第1集「日本列島の蝶」  
 入江照夫 (1979) ひろおび・No.4, 1979. 播磨蝶友会  
 藤岡知夫 (1975) 日本産蝶類大図鑑・講談社



(S. 05 : KOUZAKU AISAKA 姫路市 )

## 兵庫県に於ける 蝶5種の新産地

広畑政己

1978年から1980年にかけて後記5種の新しい産地を発見したので次の通り報告する。採集記録を御提供いただいた石井為久、西隆広の諸氏にお礼申し上げる。

### 1. クロツバメシジミ

本種の食草であるツメレンゲは、兵庫県下の瀬戸内側の各地に局地的ではあるが広く分布している。これまでの調査の結果、ツメレンゲは分布しているが本種の確認ができていない所が数ヶ所あったがその中の2ヶ所から本種が発見された。採集記録は次の通りである。

#### <採集記録>

赤穂郡上郡町上郡 1♂1♀ 9-X-1979 石井為久  
宍粟郡山崎町木ノ谷 2♂1♀ 15-VII-1978 石井為久

### 2. ミスジチョウ

本種は県下では産地、個体数とも比較的少ない種で佐用郡では海内、瑠璃寺などが知られているが、この度佐用郡佐用町若州に於てウツギに吸蜜中の1♀を採集した。若州ではこれまで記録がないように思われるので報告した。

#### <採集記録>

佐用郡佐用町若州 1♀ 5-VI-1980 広畑政己

### 3. クロコノマチョウ

南方系の蝶の中でナガサキアゲハとともに近年注目されるようになったのが本種である。

県下に土着するためには越冬が問題とされているが、台風などの要因によって運ばれてくる可能性の薄い5月から7月にかけての記録も数例報告されており、土着の可能性は強い。今後個体群の密度が高くなれば、完全に定着するものと思われる。

この度採集した個体は薄暗くなった午後5時30分ごろ柿の木の付近にいたところを採集したもので、カキの熟した実に来ていたものと思われる。

#### <採集記録>

神崎郡市川町上牛尾 1♂ 5-X-1980 広畑政己

### 4. エゾスジグロシロチョウ

兵庫県南西部を中心にかなり広範囲に調査を行ったが、採集したものはほとんどがスジグロシロチョウで、本種の分布の可能性が強いと考えていた千種町、波賀町、一宮町の山間部からも本種は確認できなかった。

その中で、大河内町川上にてからも1頭採集することができた。同地ではスジグロチョウと混生している。

#### <採集記録>

神崎郡大河内町川上 1♂ 5-V-1980 広畑政己  
佐用郡上月町上秋里 1♂ 14-VI-1980 西隆広

### 5. ヤマキマグラヒカゲ

前記エゾスジグロチョウとともに、日本産蝶類の中では、同定の難しい種である。従って分布についてもあまり詳しい調査がされていない。採集された標本の中には本種と同定されずに埋もれているものもかなりあるのではないと思われる。

この度の調査で次の4ヶ所から本種を確認することができた。この中にはすでに発表された産地もあるかもしれないが、新しい記録として留めておく。

#### <採集記録>

佐用郡佐用町日名倉山 1♂ 18-V-1980 広畑政己  
宍粟郡一宮町小原 1♂ 18-V-1980 〃  
〃 〃 富士野 1♂ 27-VIII-1980 〃  
美方郡温泉町春來 5♂1♀ 16-VIII-1980 〃

(S. 28: MASAMI HIROHATA 姫路市)

## 姫昆ミニミニニュース

1979. 2 /ベニモンカラスシジミ 宍粟郡で採卵  
1979. 5~9 /ヒメアカタテハ 播磨地方で大発生  
1979. 8 /オオヒカゲ 鉢伏山で採集  
1979. 8 /クロコノマチョウ 新宮町で採集  
1980. 5 /ムカシトンボ 山崎町蔦沢で採集  
1980. 6 /ミスジチョウ 赤西溪谷で採集  
1980. 7 /クロコノマチョウ 網干区新在家で採集  
1980. 7~9 /ナガサキアゲハ 姫路市内で普通に発生  
1980. 8 /ハネヒロエゾトンボ 姫路市豊富町で採集  
1980. 8 /クロヒカゲモドキ 佐用町で採集  
1980. 8 /オオヒカゲ 日名倉山で採集  
1980. 10 /クロコノマチョウ 西脇市合出で採集

## 第16回国際昆虫学会議に出席して

三木 順一

この会議は8月3日から9日まで、京都国際会館で開かれた。組織委員長は京大名誉教授の石井象二郎氏。国際昆虫学会議は1910年ベルギーで開かれたのが第1回で、4年に1回開催され、今回はアジアでは初めてである。参加国75ヶ国、参加人員は外国約1100人、国内約1000人、18の分野で約100のシンポジウムが行われ、発表講演題数約1300件にもなった。

この会議では昆虫分類学・形態学・生理学・生化学・遺伝学、の基礎的分野から、農業昆虫学、衛生昆虫学、森林昆虫学、家畜昆虫学、農薬などの害虫防除、養蜂学、養蚕学など応用分野も発表、討論された。

シンボルマークは「赤トンボ」で、日の丸の赤と白、秋津州（あきつしま）、京都のムカシトンボを意味しているという。このトンボマークの可愛いバッジを入口で会員章として渡される。又480頁にわたるずしり重い英文のみの抄録も戴く。それに「日本の昆虫学」と題する130頁の英文の本、日本の昆虫学の歴史から学者、研究所、単行本、雑誌までなかなか詳しく書いてある。3回位で廃刊になった虫の地方雑誌までのせてある。展示場には蚕の発育の生きた展示、幼虫の人工飼料飼育、日本産蝶の標本とその分類パネル、丸善の昆虫関係の洋書、保育社のカラーブック等の展示販売、それに機械屋の立派な実験器具などが出ている。8月2日にはギフチョウの絵柄の記念切手が郵便局で発売になったが、皆さん入手されたでしょうか。京都の会場では記念切手はなく、初日カバーだけの発売であった。会議の出席者は研究者ばかりで、蝶キチや採集趣味家の出席はほとんどないようだった。発表、討論、アナウンスまで全部英語で、机にある同時通訳のイヤホンも日本語なしは、勞れた。

第1日石井博士の英語のあいさつ、日本の昆虫学の歴史、害虫との戦い、鳴く虫や虫を愛する国民の話など印象に残っている。初日の特別講演は西ドイツ、マックス、プランツ研究所のフランツ・フーバー教授の「Insects as model systems in neuroscience」。

鳴く虫の神経、筋肉、の微電流と発生音を、脳波や心電図みたいにして見せて戴いた。

第2日から各分科会になったわけだが、私は仕事の関係で初日に日本の蜂関係の学者と夕食を共にしながら、少し話をして満足して帰った。

(S. 06 : JUNICHI MIKI 福岡郡福岡町 )

## 昆虫館だより ④

千種川グリーンライン昆虫館

館長 内海 功一

この夏には庭のカツラの木にアカスジキンカメムシが多数やってきた。その後、かの、台風で近くの山のキハダの実のついた枝が折れて落ちたとき、そのキハダの未熟な実に前記の虫の大小の幼虫が多くついていた。あの臭い実も好物の1つようだった。エサキモンツノカメムシもついていた。何とか飼育中。

つぎに、9月末、大栗郡の三方小学校を訪れたとき、赤い実をつけたニシキギにキバラヘリカメムシの幼虫が、これまた、無数といたい程ついていた。1部を払い落して持ち帰り、代用のツリバナなどで飼育中。先年はツルウメモドキの実にこの虫を見たが、ニシキギ科の植物を好むのがよくわかる。ついでに、船越山ではツノアカツノカメムシも見つかっている。

(S. 08 : KOICHI UTSUMI 佐用郡南光町船越)

## 佐用町でモンクロベニカミキリを採集

黒田 収

少し古い記録ですが、兵庫県佐用郡佐用町でモンクロベニカミキリ(*Purpuricenus lituratus* GANGLBAUER)を採集した。兵庫県産としては比較的珍しい種と思うので報告する。

〈採集記録〉

佐用郡佐用町 1♀ 10 VI 1979 黒田 収

当日午前11時頃、まだ新しいクヌギの伐木切口(直径8cm、長さ1.2m)の上に止っていた。産卵のため静止していたのかもしれないので、念のため材は持ち帰っている。

尚この日、他にコブスジサビカミキリ、キクスイモドキカミキリ、チャボヒゲナガカミキリ等を採集した。

(S. 14 : OSAMU KURODA 姫路市 )

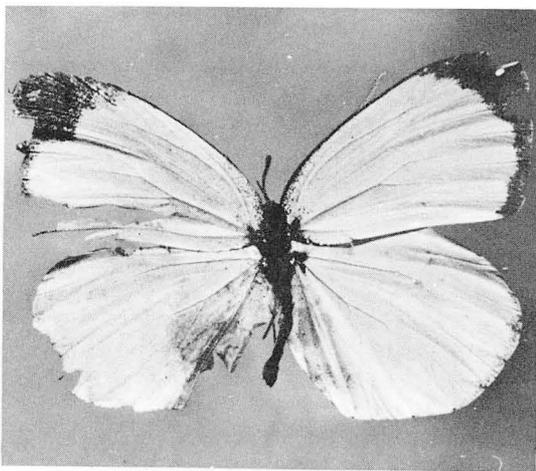
## 兵庫県下における 異常型の記録

相坂耕作

1979年度に得た異常型3個体を報告しておく。

### 1. キチョウの雌雄型

1979年7月1日兵庫県佐用郡佐用町の福沢栗園においてゼフィルスの採集中左右の色の違うキチョウを偶然見つけ採集したところ夏型のキチョウ雌雄型であった。この個体は完全分離型で左翅が雌、右翅が雄の完全に左右で分離した左右型 (bilateral form) の雌雄型であった。



Data :

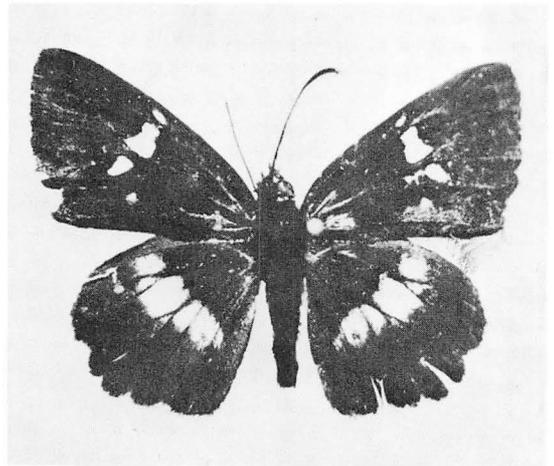
佐用郡佐用町 雌雄型 1-VII-1979 相坂耕作採蔵

### 2. ダイミョウセセリの異常型

ダイミョウセセリ *Daimio tehs daiseni* Riley の前翅異常個体を採集しているので報告しておきたい。

この個体は通常10ヶあるべきはすの前翅白斑が4ヶのみとなっております。尚後翅の白帯は発達が良く幅広くなっている裏面も同様である。

なお写真撮影を願った広畑政己氏には厚くお礼申し上げます。



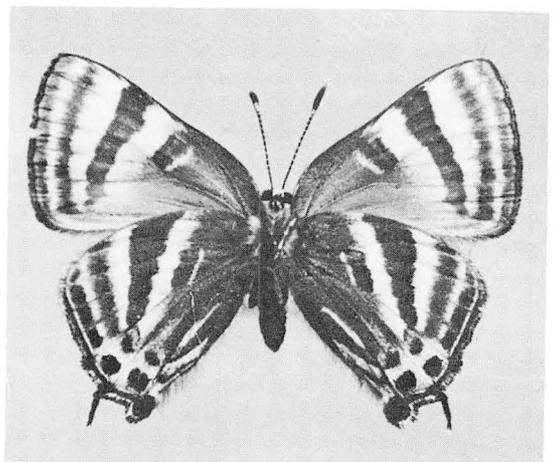
Data :

西脇市比延 1♀ 10-VI-1979 相坂耕作採蔵

### 3. トラフシジミの異常型

飾磨郡夢前町坪で得られたトラフシジミ (*Rapara arata*) の春型の異常型があった。裏面後翅の肛角部の紅(橙)紋が消え灰白色となった個体であり報告しておく。

尚写真の標本は結城八郎氏より寄贈を受けたものであり、同氏の御厚意に感謝致します。



Data :

飾磨郡夢前町坪 1♀ 4-V-1979 結城八郎採

(S. 05 : KOUZAKU AISHAKU 姫路市)

## 分布を広げるナガサキアゲハ

唐土洋一

揖保郡御津町室津に本種の定着が確認されてから、はや3年が過ぎた。ところで、この3年間におけるこの蝶の分布拡大には目を見はるものがあり、いまでは相生市付近においても余り珍しくない部類の蝶になってきた感じがする。因みに、筆者が調査した1980年度 の状況を報告しておく。

- (1) 5月24日、御津町室津で1♀採集およびミカン樹より2卵採集。
- (2) 5月31日、御津町室津でミカン樹より4卵採集。
- (3) 6月8日、相生市川原町にて1♀採集。
- (4) 6月13日、相生市金ヶ崎および鯛浜にてミカン樹より3令幼虫を各々1頭採集。
- (5) 6月14日、相生市天神町にてミカン樹より3令幼虫を3頭採集。
- (6) 8月2日、竜野市常照寺前にて1♂目撃および境内にて1♀採集。
- (7) 8月15日、御津町室津にて2♂♂1♀目撃。
- (8) 9月3日、相生市青葉台の自宅庭にて1♀採集および御津町室津にて2♀♀採集および1♀目撃。
- (9) 9月7日、御津町室津にて1♀1♂♂目撃および御津町尼谷にて1♂1♀目撃。
- (10) 9月13日、相生市石川島播磨重工構内にて1♀目撃および御津町室津にて5♂♂2♀♀目撃。
- (11) 9月15日、相生市天ヶ台山および大谷町にて各々1♂目撃および御津町室津にて6♂♂4♀♀目撃。
- (12) 9月17日、石川島播磨重工構内にて1♀目撃。

9月7日には室津にて定点観察を行ったので、合せて報告しておく。

時間：12：40～13：30

天気：晴のちくもり

確認した種名（雌雄の区別は省く）

- |                    |                    |
|--------------------|--------------------|
| ① ナミアゲハ……………7      | ② クロアゲハ……………6      |
| ③ アオスジアゲハ……………6    | ④ ナガサキアゲハ……………15   |
| ⑤ カラスアゲハ……………3     | ⑥ モンキアゲハ……………10    |
| ⑦ ゴマダラチョウ……………4    | ⑧ コミスジ……………3       |
| ⑨ アカタテハ……………2      | ⑩ スジグロシロチョウ……………11 |
| ⑪ モンシロチョウ……………1    | ⑫ キチョウ……………1       |
| ⑬ ヒメウラナミジャノメ……………7 | ⑭ ヒカゲチョウ……………5     |
| ⑮ ヤマトシジミ……………3     | ⑯ ウラナミシジミ……………3    |

## ⑰ イチモンジセセリ………2

以上17種を確認した。

## 〈参考文献〉

広畑政己：(1980) 兵庫県のナガサキアゲハ  
ひろおび、No.5

(S. 18 : YOHICHI MOROKOSHI 相生市 )

## 赤西溪谷でオナガシジミを採集

花岡正

オナガシジミは県下ではまだ数ヶ所しか棲息が確認されていないが、1978年に赤西にて本種を採集したので報告する。

近くの音水、阿舎利では棲息が確認されているので、附近からまだまだ新産地が出るのではないと思われる。

赤西は溪谷全体にオニグルミ、サワグルミの若木から大木まで数多く有り、オナガシジミの棲息には適している様子。

1978年7月23日に尾崎、結城の両氏と採集に出かけ、梢上のオナガシジミを目撃、この日は採集できなかったが、夕立の中、梢上を飛び廻っている個体の多さには驚かされた。その後、7月31日に同地を訪れ、3♂1♀を採集した。痛みはほとんどなく、長野県産と比べてみたが、大きさや裏面の黒斑も変りがないように思えた。

1979年5月13日に今度は唐土、米村の両氏と同地を訪れ、2令幼虫を30頭採集した。幼虫はサワグルミの2m位の木や大木の枝から得られた。この時期のサワグルミの芽は枝の所々にかたまっていて、母蝶が産卵しやすそうな枝の芽の中を見て、黒い糞があれば本種と思ってまちがいない。

採集した幼虫は約20日で蛹化し、10日後の6月15日ごろから羽化を始めた。飼育で気付いたことを2点、(1)クルミの新芽は痛みが早いので、枝ごとそれもなるべく長くビンなどの容器にさして飼育するのがよい。クルミとまぎらわしい木があるが、クルミは粘りの強い液が新芽から出るので容易にわかる。

(2)蛹化は葉上やシャーレですが、蛹化後必ず尾端を軽く固定すること。葉上で蛹化した個体は必ず葉をつけておくこと。これはカラを破っても、カラが体から離れずに羽化できなかったとか、カラから出て、それに力を使い切ってしまう、羽化できずに終ったりさせない為にもぜひ必要である。

赤西溪谷でのオナガシジミの調査報告に加え、飼育上の要点などをまとめてみた。

(S. 19 : TADASHI HANAOKA 姫路市 )

# ギフチョウの食草カンアオイ属 Heterotropaの違による成長差

尾崎 勇

ギフチョウ *Luehdorfia Japonica* Leech の食草であるカンアオイ属は全国各地でくわしく調べられており、各地より多くの種が発表されている。その種類は産地により相違している。野外ではギフチョウはカンアオイ属なら、どの種でも食餌植物としていると言うわけではない。ギフチョウを産する地にはこのチョウの主要な食草である特定のカンアオイ属を食餌としている。

兵庫県内には4種のカンアオイ属 (*Heterotropa*) が分布しており、南部の淡路島(先山)にナンカイアオイ (*H. nipponica* Var *nankaiense*)、東部にヒメカンアオイ (*H. takaoui* Var *takaoui*)、西部にミヤコアオイ (*H. aspera*)、北部にサンインカンアオイ (*H. nipponica* Var *saninense*) が生育している。

他に中央背山にフタバアオイ (*Asarum caulescens*) ウスバサイシン (*A. sieboldii*) が分布している。だがギフチョウの食餌食物とはなっていない。

5月13日孵化のヒメカンアオイ食ギフチョウを木村三郎氏より譲与され、1卵塊16頭の幼虫を栽培しているカンアオイ属で飼育して見た。栽培している種も数が少ないので各種2頭とした。兵庫県西脇市産ヒメカンアオイ、朝来郡生野町産サンインカンアオイ、淡路島先山産ナンカイアオイ、滋賀県武奈ガ岳産ミヤコアオイ、兵庫県相生市産ミヤコアオイ、鳥取県大山産ミヤコアオイ、長野県入笠山産ウスバサイシン、園芸店より入手したツクシアオイ? (*Asarum blumei*) を使用した。

飼育場所は屋内で、直射日光があたらない机上で行った。飼育器は径85%高さ25%のプラスチックのシャーレを使用した。5月13日に孵化後14日迄ヒメカンアオイを与え、15日以後は各種のカンアオイ属に切替えた。同時に朝来郡生野町で採卵されたサンインカンアオイ食のギフチョウも飼育した。

同ギフチョウは5月12日に7頭孵化した。同幼虫はヒメカンアオイで飼育した。5月14日~15日に孵化した幼虫は6頭で竜野市産ミヤコアオイで飼育した。

生野町で成虫の見られるのは、4月末より5月上旬で西脇市より20日程後れる。飼育に使用した卵は生野町在住の清水宏一君の発見された新産地のもので、同地で採集されたのは2♂のみであるが、2♂共に後翅

表1. ヒメカンアオイ食ギフチョウの飼育記録

食草	令数	1令	2令	3令	4令	5令	蛹	計
西脇市産 ヒメカンアオイ	5月 13日		17日	20日	24日	27日	6月 6日	24日
生野町産 サンインカンアオイ	5月 13日		17日	20日	25日	28日	6月 8日	26日
淡路島先山産 ナンカイアオイ	5月 13日		17日	21日	25日	28日	6月 8日	26日
滋賀県武奈ガ岳産 ミヤコアオイ	5月 13日		17日	20日	26日	29日	6月 9日	27日
相生市産 ミヤコアオイ	5月 13日		18日	22日	27日	31日	6月 15日	33日
鳥取県大山産 ミヤコアオイ	5月 13日		18日	21日	26日	29日	6月 11日	29日
長野県入笠山産 ウスバサイシン	5月 13日		17日	21日	25日	28日	6月 9日	27日
園芸店より入手 ツクシアオイ	5月 13日		17日	21日	25日	29日	6月 10日	28日

表2. サンインカンアオイ食ギフチョウの飼育記録

	1令	2令	3令	4令	5令	蛹化	計
西脇市産 ヒメカンアオイ	5月12日	5月18日	5月25日	5月30日	6月5日	6月14日	33日
竜野市産 ミヤコアオイ	5月12日	5月18日	5月26日	5月31日	6月7日	6月17日	36日
竜野市産 ミヤコアオイ	5月14日	5月20日	5月28日	6月4日	6月15日	6月25日	42日
竜野市産 ミヤコアオイ	5月15日	5月21日	5月28日	6月5日	6月17日	6月28日	45日

表面、肛角部の紅色紋が橙黄色になった個体で、私は検していないがヒメギフチョウによくにているそうである。早速同君に採集地を捜していただき採卵していただいた卵である。どのような成虫が羽化するか来年の春が楽しみである。

## 飼育の結果による考察

やはり飼育すると蛹化が早くなる。西脇市の野外では6月5日頃はほとんどの幼虫は3令で早いもので4令である。

サンインカンアオイとナンカイアオイで飼育したものは幼虫期間が26日で早い方である。サンインカンアオイは県北部の日本海側と中央山地の主要食草であるのでヒメカンアオイで飼育したものとほぼ同じような幼虫期間であったのは当然であるが、ギフチョウの食草となっていないナンカイアオイも同じ幼虫期間で蛹化したのには驚いた。やはり同じタイリンアオイ節だ

からなのだろうか。

同じミヤコアオイでも武奈ヶ岳産ではウスバサイシンで飼育したものと幼虫期間も同じであるが、相生市産のミヤコアオイで飼育したものでは相当日数もかっている。花は変らないが葉は武奈ヶ岳産では葉面の短毛が少ない。葉質は相生市産よりもやや薄く少し光沢がある。相生市産及び竜野市産のミヤコアオイは葉面に短毛を散生し、光沢がなく、葉質もやや厚い。日本海側のミヤコアオイと瀬戸内側のミヤコアオイは亜種ぐらいの違いがあるのかもしれない。

県北東部や鳥取県では食餌植物となっているのに、なぜ県南西部のミヤコアオイは野外での食草となっていないのだろうか？。1回や2回の比較飼育ぐらいでは結論は出ないが、南西部にギフチョウの発生を見ないのは幼虫の食付の悪さ、幼虫期間が長い上に蛹も他の種で飼育した蛹よりも小型である。このようなことも発生しえない原因の1つになっているものと考察する。

#### カンアオイの栽培種・古典植物細辛

カンアオイ属は北半球温帯・暖帯に約70種が自生しており、日本では本州北部から沖縄にかけて40種程がすみ分けている。

カンアオイの自生地は、木もれ日のさす林内の水はけのよい斜面で、根の先は土の中へ深く入り込んでいます。茎は地中を浅くはって、1年に1節ずつ伸びます。自生地は低山帯に多く、高山に生えている種はありません。たゞ1種ミヤマアオイだけは比較的高い北アルプスの登山口付近に自生しています。

カンアオイは本来、関東地方南部を中心に見る種類ですが、一般にはカントウカンアオイと呼ばれ、カンアオイと言うとカンアオイ40種程の仲間全体をさすのが普通です。

江戸時代の昔から伝統的にカンアオイを栽培している人達がいる。この人達の間では細辛(サイシン)常盤細辛、江戸細辛と呼ばれ、その母種はカントウカンアオイやスズカカンアオイです。

園芸家の間では特に葉柄の色がやかましい。普通私達が森で見る暗紫色の葉柄では汚れていると言ってきかれる。まず何よりも緑色の葉柄でなければならぬ。これを青軸と呼ぶ。黄色味を帯びたのを極黄と言って珍重される。葉の基部の両縁の耳状の部分が着物の襟を合せたように、左右が重なりあっているのを、襟合せとか蝶重ねが良いと言って合格点を与える。

細辛は花を楽しむと言うより、葉面の柄を中心に1年中変らない葉を観賞する植物です。江戸時代から明治・大正年代にかけて愛培され、その品種も100種前後知られていた様だが、そのほとんどが絶えてしまっているようです。

蝶と言うのは葉の基部の左右耳状の部分にある斑紋のことです。葉面に糊をつけたように薄く白く斑のように浮いて見えるのを糊と言ひ野生品にもよく見られます。葉の主脈にそって白斑の通っているのを一文字と言ひ、葉面にはいる斑によってアラレ斑・ゴマ斑・玉斑・虎斑などと呼ばれています。

フタバアオイも近年よく栽培されているのを見かける。1茎の先に葉が2枚づつあるので双葉葵の名がある。京都の加茂神社の祭礼に、このアオイが使われるので加茂葵の名もあります。又徳川家の紋章の3ツ葉葵もこれに基づいたものです。

花は淡紅紫色で径1センチ程で下向きになって開きます。花は葉の下にかくれ地際に咲くので上から見たのでは一寸見落します。鉢植にして横から眺めるとまことに良いものです。

ギフチョウ採集のひと時、青軸物や黄色の雲紋葉を捜してみませんか。

因みに山草家の間で栽培されている種を上げると、フタバアオイ節

フタバアオイ, *A, caulescens*

ウスバサイシン節

ウスバサイシン, *A, sieboldii*

カントウカンアオイ節

カンアオイ, *H, K, var nipponicum*

スズカカンアオイ, *H, K, var brachypodion*

ランヨウアオイ節

ツクシアオイ, *H, kiusianum*

ヤクシマカンアオイ, *H, yakusimense*

ヒメカンアオイ節

ミヤマアオイ, *H, t, var nakaii*

モエギカンアオイ, *H, t, var viridi*

コバノカンアオイ, *H, t, var variegatum*

ミヤコアオイ節

ツクバネアオイ, *H, a, var constrictum*

コバナカンアオイ, *H, a, var parviflorum*

ナンゴクアオイ, *H, a, var crassum*

(S. 26 : ISAMU OZAKI 明石市 )

## 夜間灯火に飛来した蝶14種

相坂耕作

夜行性で走光性(趨光性)をもつ昆虫を採集調査する際、光の刺激に誘引されて集まる蛾や甲虫類を調べているうち数多く蝶が飛来してきたので報告しておく。なお光源はすべて水銀灯に飛来してきたものである。

## 夜間採集で得られた蝶

(1)ミヤマカラスアゲハ(♀)	夫栗郡引原	1979-VIII
(2)スミナガシ(♂)	"	1980-VIII-22
(3)ルリタテハ	"	1980-VIII-23
(4)オオムラサキ(♂)	"	1980-VII-27
(5)アサマイチモンジ	"	1980-VIII-30
(6)コミスジ(♀)	"	1980-VIII-30
(7)ヒメウラナミジャノメ	"	1979-VIII
(8)ヤマキマグラヒカゲ	"	1980-VIII-30
(9)ヒメキマグラヒカゲ	"	1980-VIII-30
(10)クロヒカゲ	"	1980-VIII-30
(11)ダイミョウセセリ	"	1980-VIII-23
(12)オオチャバネセセリ	"	1979-VIII
(13)ヒメキマグラセセリ(♂)	"	1980-VIII-30
(14)イチモンジセセリ	姫路市飾磨区	1980-IX-4

以上14種が得られた。(1)ミヤマカラスアゲハ♀は松尾隆人氏の見撃(4)オオムラサキ♂は菅原昭夫氏の見撃(5)のアサマイチモンジは松尾隆人氏の見撃種である。他の(2)(3)(6)(7)(8)(9)(10)(11)(12)(13)(14)種は筆者採集品であり、いずれも初めて採集された日のみデータしておりスミナガシ・ヒメウラナミジャノメ・ヤマキマグラヒカゲ・ヒメキマグラヒカゲ・クロヒカゲ・イチモンジセセリなどは多数得られている。

尚夜間灯火に来た蝶として鳥取県大山にてウラギンシジミ1972-VII-7木村二郎氏が得られており各地ではミズイロオナガシジミ・エゾミドリシジミ・サトキマグラヒカゲや各種ジャノメチョウ科・セセリチョウ科の記録が見られる。今回得た中にはアゲハチョウ科1種・タテハチョウ科5種・ヒカゲチョウ科4種・セセリチョウ科4種でシロチョウ科・シジミチョウ科は全然得られなかった。

今回の調査に協力を頂き貴重な採集データを御提供頂いた松尾隆人氏また採集された標本を御恵与下さった菅原昭夫氏に感謝致します。

(KOUSAKU AISAKA 〒672 姫路市 )

## 西播地区でのクロコノマ採集例

稲田和久

1980年5月4日(日)曇。雪彦山でスギタニルリシジミを採集中のところ、駐車場の東縁でクロコノマ1♀を採集したので報告する。

天候が悪かったせいもあり、道路からでも発見できるほど飛びまわっていた。その周辺及び川の対岸のススキを見たが、卵は見られなかった。

また、1973年8月22日に船越山で甲虫のスウィーピングを行っていたところ、昆虫館の前あたりのススキでクロコノマの終令幼虫を得た。家に持ち帰り飼育の結果、9月2日に♂が羽化した。

また、1977年8月30日に揖保郡御津町新舞子のミカン園でクロコノマ1♂を採集した。周辺には食草となるススキが多くあり、再度と思い採集には出掛けるが、いまだに目撃すらできない。確認した話ではないが、京見山でも目撃例があるとのこと、今後確認を急ぎたい。

(S. 57 : KAZUHISA INADA 姫路市 )

## ウラギンシジミの越冬についての知見

広畑政己

本種の越冬個体を確認したのは、兵庫県神崎郡市川町上牛尾で、1978年1月2日と1979年1月1日に樹高が約4m程あるツバキから発見した。

成虫は密生したツバキの葉裏に静止していたが、木を激しく揺り動かすと、ヒラヒラと木の葉が落ちるよう落下してくるものもあれば、一直線に落ちて来て、そのまま横倒しになり動かなくなったものもあった。

1974年1月2日の厳しく冷え込んだ風の強い日にも、同地で同じツバキから落下して死んでいた個体を2頭目撃している。

県下では本種の越冬についてはなんら問題はないと考えていたが、気温やその他の気象面でかなりの影響を受けているようである。

ツバキの他にも同地でチャの木より本種の越冬個体を確認している。

(S. 28 : MASAMI HIROHATA 姫路市 )

# 姫路昆虫同好会新入会員名簿

1980. 10月31日現在

## 編集後記

会報No.6をお手許にお送りいたします。今回も多くの会員の方々の原稿をいただき、おかげさまで30頁の大体にのせることが出来ました。

兵庫県下における新産地が続々とみつかります。

次回No.7は1981年12月に発行予定ですので、今後とも郷土の資料を数多くご投稿下さい。

又、姫昆サロンニュースの方へもハガキ等で、きがるに原稿をお送りください。県外ニュースでも採用させていただきます。 (運営委員)

## 「てんとうむし」 No.6

発行日・1980. 12. 20.

発行・姫路昆虫同好会  
飾磨郡夢前町菅生澗161

編集者・相坂耕作、木村三郎、広畑政己

印刷・西播印刷所

## 目 次

兵庫県における <i>Olenecamptus</i> 属 カミキリムシ 3 種の分布について	高橋寿郎	1
9月に羽化したツマキチョウ	広畑政己	4
兵庫県のシルビアシジミ	広畑政己	5
姫路市の昆虫	相坂耕作	10
西播の蝶分布資料(8) 宍粟郡のメスアカミドリシジミ	岩村 巖	21
相生市のナガサキアゲハについて	米村和繁	22
姫路市児童生徒科学作品展に拾った蝶	木村三郎	23
アカジマトラカミキリ多数採集す	黒田 収	24
神崎町でメスアカミドリシジミ採卵	石井為久	24
三濃山へクロヒカゲモドキをたずねて	唐土洋一	25
福崎町の蝶	石井為久	26
鷹の巣高原でオオヒカゲを採集する	花岡 正	26
西脇市の蝶	吉田 豊	27
姫路市産アオスジアゲハの異常型の調査	相坂耕作	28
兵庫県に於ける蝶5種の新産地	広畑政己	30
姫昆ミニミニニュース	編 集 部	30
第16回国際昆虫学会議に出席して	三木順一	31
昆虫館だより ④	内海功一	31
佐用町でモンクロベニカミキリを採集	黒田 収	31
兵庫県下における異常型の記録	相坂耕作	32
分布を広げるナガサキアゲハ	唐土洋一	33
赤西溪谷でオナガシジミを採集	花岡 正	33
ギフチョウの食草カンアオイ属 <i>Heterotropa</i> の違いによる成長差	尾崎 勇	34
夜間灯火に飛来した蝶14種	相坂耕作	36
西播地区でのクロコノマ採集例	稲田和久	36
ウラギンシジミの越冬についての知見	広畑政己	36
新入会員名簿		37